

# 官報號外

昭和十九年一月二十八日

官

報

號外

## ○第八十四回衆議院議事速記録第六號

昭和十九年一月二十七日(木曜日)

午後一時四十五分開議

議事日程 第四號

昭和十九年一月二十七日

午後一時開議

第一 海軍刑法及海軍軍法會議法中改

正法律案(政府提出、貴族院送付)

第二 訴訟費用等臨時措置法案(政府

提出、貴族院送付)

第三 會社等臨時措置法案(政府提出、

貴族院送付)

第四 經濟關係罰則ノ整備ニ關スル法

律案(政府提出、貴族院送付)

第五 朝鮮ニ於ケル裁判手續簡素化ノ

爲ノ國防保安法及治安維持法ノ戰時

特例ニ關スル法律案(政府提出、貴族

院送付)

第六 朝鮮私設鐵道補助法中改正法律

案(政府提出、貴族院送付)

○議長(岡田忠彦君) 諸般ノ報告ヲ致セ

マス  
〔書記官朗讀〕

一、本日貴族院ヨリ受領シタル政府提出案

官報號外

昭和十九年一月二十八日

衆議院議事速記録第六號

議長ノ報告

海軍刑法及海軍軍法會議法中改

正法律案

通發令アリタル旨ノ通牒ヲ受領セリ

四三〇

伊吹元五郎君

四五〇

森 佐吉君

聚君

文部書記官 伊藤日出登

府委員被仰付

大東亞省調査官 小野儀七郎

第八十四回帝國議會大東亞省所管事務政

府委員被仰付

鐵道監 富山 清憲

第八十四回帝國議會運輸通信省所管事務

政委員被仰付

隆君

第三部選出豫算委員 川副 隆君

○議長(岡田忠彦君) 是ヨリ會議ヲ開キマ

ス、御詰リ致シマス、豫算委員長ヨリ日本

本會議中分科會ヲ開キタリトノ由來ガアリ

マス、尙ホ昭和十九年度一般會計歲出ノ財

源ニ充ツル等ノ爲ノ公債發行ニ關スル法律

案外十件委員長ヨリ、本日本會議中委員會

ヲ開キタリトノ申出ガアリマス、何レモ之

ヲ許可スルニ御異議アリマセヌカ

上ガマス

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔國務大臣鷲田繁太郎君登壇〕

○國務大臣(鷲田繁太郎君) 只今議題トナ

リマシテ海軍刑法及海軍軍法會議法中改

正法律案ニ付キマシテ、提案ノ理由ヲ説明申

上ガマス

先般海軍ニ見習尉官制度ガ設ケラレマシ

タニ伴ヒマシテ、海軍刑法及海軍軍法會議

法中之ニ對應スベキ規定ヲ設ケル必要ヲ生

ジマシテ、是等法律ノ中、之ニ關スル規定

ヲ整備シマスルト共ニ、最近戰爭ノ遼闊ニ

伴ヒマシテ、海軍將校ノ大多數ガ第一線ノ

配置ニ就イテ居リマス、海軍軍法會議

ノ判士ノ召集ニ困難ヲ來シマシテ、軍法

會議ノ開廷ニ支障ヲ生ジ、延イテハ被告事

案

明治二十五年三月三十一日

第三編制便物認司

一、昨二十六日東條内閣總理大臣ヨリ左ノ通發令アリタル旨ノ通牒ヲ受領セリ

第二條 海軍軍法會議法中左ノ通改正ス

ヲ加フ

第八條中「候補生」ノ下ニ「見習尉官」

案

第一條 海軍刑法中左ノ通改正ス

ニ加フ

第三十二條中「充ツ」ノ下ニ「戰時事變

ニ際シ必要アルトキハ海軍ノ將校相當

官ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得」ヲ加フ

第三十四條ニ左ノ一項ヲ加フ

前二項ノ規定ハ第三十二條後段ノ規

定ニ依リ將校相當官ヲ以テ判士ト爲

正法律案

ス場合ニ之ヲ準用ス

第四十七條第二項中「裁判長トス」ノ下

ニ「上席判士ハ將校タル判士タルコト

ヲ要ス」ヲ加フ

第四十九條第二項第一號及第五十二條

第二項第二號中「候補生」ノ下ニ「見習

尉官」ヲ加フ

附 則

○議長(岡田忠彦君) 是ヨリ會議ヲ開キマ

ス、御詰リ致シマス、豫算委員長ヨリ日本

本會議中分科會ヲ開キタリトノ由來ガアリ

マス、尙ホ昭和十九年度一般會計歲出ノ財

源ニ充ツル等ノ爲ノ公債發行ニ關スル法律

案外十件委員長ヨリ、本日本會議中委員會

ヲ開キタリトノ申出ガアリマス、何レモ之

ヲ許可スルニ御異議アリマセヌカ

上ガマス

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔國務大臣鷲田繁太郎君登壇〕

○國務大臣(鷲田繁太郎君) 只今議題トナ

リマシテ海軍刑法及海軍軍法會議法中改

正法律案ニ付キマシテ、提案ノ理由ヲ説明申

上ガマス

先般海軍ニ見習尉官制度ガ設ケラレマシ

タニ伴ヒマシテ、海軍刑法及海軍軍法會議

法中之ニ對應スベキ規定ヲ設ケル必要ヲ生

ジマシテ、是等法律ノ中、之ニ關スル規定

ヲ整備シマスルト共ニ、最近戰爭ノ遼闊ニ

伴ヒマシテ、海軍將校ノ大多數ガ第一線ノ

配置ニ就イテ居リマス、海軍軍法會議

ノ判士ノ召集ニ困難ヲ來シマシテ、軍法

會議ノ開廷ニ支障ヲ生ジ、延イテハ被告事

案

件ノ處理ノ遲延スルヲ免レナイ状況トナリ  
マシタノデ、戦時事變ノ特例ト致シマシテ

名ハ書記官ヲシテ報告致サセマス  
〔書記官明讀〕

## 訴訟費用等臨時措置法案

勅令ヲ以テ之ヲ定ム

判士トナルベキ者ノ範圍ヲ擴張シテ、將校ノミニ限ラズ、將校相當官ヲモ判士トナシ

海軍刑法及海軍軍法會議法中改正法律案  
(政府提出、貴族院送付) 委員

**第一條 戰時ニ於ケル民事訴訟費用、刑事訴訟費用、執達吏手數料等ニ關スル特例、（明治三十九年五月二十二日）**

## 會社等臨時措置法

ノ判士トシテノ資質ニ關シマシテモ差支ヘ  
ナシト認メラル、ニ依リマシテ、此ノ點ニ  
付テ海軍軍法會議法中關係ノ規定ヲ改正セ  
ントスルモノデアリマス

猪野毛利榮君  
大倉三郎君  
九鬼紋七君  
高橋壽太郎君  
小澤治君  
漢那憲和君  
信太機右衛門君  
高木義人君

第二條 民事訴訟費用用法第二條第一項及  
第二項ノ書記料竝同法第三條ノ翻譯  
料ハ百分ノ百ヲ增加ス

六

リマシテ、第一ハ、海軍刑法中、海軍軍人ノ名稱例ニ關スル規定中ニ見習尉官ヲ加ヘル如ク之ヲ整備シマスルト共ニ、海軍軍法會議法中、見習尉官ヲ被告人トスル場合ニ於キマスル軍法會議ノ判士ノ區別ニ關スル規定ヲ整備シタコトデアリマス、第二ハ、海軍軍法會議ノ職員タル判士ニハ、戰時事變ノ際ハ上席判士ヲ除キマス外ハ、將校相當官ヲモ之ニ當テ得ルコトニ改正シタコトデアリマス

○議長(岡田忠彦君)　只今指名致シマシタ  
委員諸君ハ、本會議散會後第三委員室ニ御  
參集ノ上、委員長及び理事ヲ互選セラレ  
コトヲ望ミマス——日程第二乃至第四ハ便  
宜上一括議題トナスニ御異議ナザイマセヌ  
力  
〔「異議ナシ」ト呼ブ者アリ〕

以上ノ理由ニ依リマシテ、本改正法律案ヲ提出致シマシタ次第デアリマス、何卒御氣議ノ上速カニ御協賛ヲ與ヘラレンコトヲ切望致シマス（拍手）

○議長（岡田忠彦君） 只今指名致シマシタ  
委員諸君ハ、本會議散會後第三委員室ニ御  
參集ノ上、委員長及び理事ヲ互選セラレ  
ントヲ望ミマス——日程第二乃至第四ハ便  
宜上一括議題トナスニ御異議ゴザイマセヌ  
カ

〔「異議ナシ」と呼ブ者アリ〕

○議長（岡田忠彦君） 御異議ナシト認メマ  
ス、日程第一、訴訟費用等臨時措置法案、  
日程第三、會社等臨時措置法案、日程第  
四、經濟關係罰則ノ整備ニ關スル法律案、  
右三案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キマス——

○森下國雄君 本案ハ議長指名十八名ノ委員ニ付託シ、直チニ委員ヲ指名セラレントラ望ミマス。  
○議長(岡田忠彦君) 森下君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ  
〔異議ナシト呼ブ者アリ〕  
○議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、委員ノ氏

○議長（岡田忠彦君）只今指名致シマシタ  
委員諸君ハ、本會議散會後第三委員室ニ御  
參集ノ上、委員長及び理事ヲ互選セラレシ  
コトヲ望ミマス——日程第一乃至第四ハ便  
宜上一括議題トナスニ御異議ゴザイマセヌ  
力

〔「異議ナシ」ト呼ブ者アリ〕

○議長（岡田忠彦君）御異議ナシト認メマ  
ス、日程第二、訴訟費用等臨時措置法案、日程第  
三、會社等臨時措置法案（政府提出、貴族院送付）  
右三案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キマス——

岩村司法大臣

第一讀會

第一、訴訟費用等臨時措置法案（政府  
提出、貴族院送付） 第一讀會

第二、貴族院送付）

第三、會社等臨時措置法案（政府提出、  
貴族院送付）

第四、經濟關係罰則ノ整備ニ關スル法律案、  
律案（政府提出、貴族院送付）

第一讀會

長野 高一君 日下田 武君

松山 常次郎君 宮澤 裕君

南 鐵太郎君 森田 正義君

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
本法施行前要シタル費用ニ付テハ仍從前  
ノ例ニ依ル  
戰時終了ノ際ニ於テ必要ナル經過規定ハ  
第五條 執達吏手數料規則第十七條ノ日  
當ハ證人ニ付テハ二圓以内、鑑定人ニ  
付テハ五圓以内、同法第十八條第一項  
ノ旅費ハ一里毎ニ五十錢以内、同條第  
二項ノ宿泊料ハ十圓以内トス  
前項ニ掲タルモノヲ除クノ外執達吏手  
數料規則及大正八年法律第四十一號ニ  
依ル手數料及立替金ハ百分ノ百ヲ増加  
スルル

**第三條** 株式會社ニシテ其ノ株主ノ員數  
ガ勅令ヲ以テ定ムル數ヲ超ユルモノニ  
在リテハ株主總會ノ招集ハ定款ニ定ア  
ル場合ニ限リ株主ニ對スル通知ニ代ヘ  
會日ヨリ三週間前ニ總會ヲ開クベキ旨  
及會議ノ目的タル事項ヲ公告シテ之ヲ  
爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ定款ノ變更其ノ他商  
法第三百四十三條ニ定ムル決議ヲ要ス  
ル事項ハ定款ニ定アル場合ニ限リ資本  
ノ半額以上ニ當ル株主出席シ其ノ議會  
權ノ過半數ヲ以テ之ヲ決スルコトヲ得

**第四條** 株式會社ノ株主總會ノ決議ヲ要  
スル事項ニシテ株主ノ利害ニ重大ナル  
影響ヲ及ボサザルモノニ付テハ定款ヲ  
以テ總會ノ決議ニ依ラザルモノトスル  
コトヲ得

前項ノ事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

**第五條** 勅令ヲ以テ定ムル株式會社ノ社  
債ノ登記ニ付テハ勅令ヲ以テ別段ノ定  
ヲ爲スコトヲ得

**第六條** 會社ノ爲スペキ公告、財產目錄  
其ノ他ノ書類ノ謄本及抄本ノ交付竝ニ  
信託證書其ノ他ノ書類ノ謄本ノ備置ニ  
付テハ機密ノ保持其ノ他公益上ノ理由  
ニ依リ勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコト  
ヲ得

**第七條** 勅令ヲ以テ定ムル會社ノ合併又

第四條 執達吏手數料規則第十七條ノ日當ハ證人ニ付テハ二圓以内、鑑定人ニ付テハ五圓以内、同法第十八條第一項ノ旅費ハ一里毎ニ五十錢以内、同條第二項ノ宿泊料ハ十圓以内トス  
前項ニ掲タルモノヲ除クノ外執達吏手數料規則及大正八年法律第四十一號ニ依ル手數料及立替金ハ百分ノ百ヲ增加

第四條 株式會社ノ株主總會ノ決議ヲ要スル事項ニシテ株主ノ利害ニ重大ナル影響ヲ及ぼサザルモノニ付テハ定款ヲ以テ總會ノ決議ニ依ラザルモノトスルコトヲ得

第五條 執達吏一年間ニ收入シタル手數料ガ勅令ノ定ムル額ニ満タザルトキハ國庫ヨリ其ノ不足額ヲ支給ス

第六條 會社ノ爲スベキ公告、財產目錄  
其ノ他ノ書類ノ謄本及抄本ノ交付竝ニ  
信託證書其ノ他ノ書類ノ謄本ノ備置ニ  
付テハ機密ノ保持其ノ他公益上ノ理由  
ニ依リ勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得  
ヲ得

ハ資本ノ減少ノ場合ニ於テ債権者ニ對シテ爲スペキ催告其ノ他ノ事項ニ付テハ勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得ニ依リ會社ニ非ザル法人ニ之ヲ準用ス附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム戰時終了ノ際ニ於テ必要ナル經過規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

經濟關係罰則ノ整備ニ關スル法律案

第一條 國家總動員法第十八條第一項若

ハ第三項ノ規定ニ依リ設立セラレタル團體又ハ營團、金庫若ハ此等ニ準ズルモノノ役員其ノ他ノ職員ハ罰則ノ適用ニ付テハ之ヲ法令ニ依リ公務ニ從事スル職員ト看做ス

前項ノ團體竝ニ營團、金庫及此等ニ準ズルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 特別ノ法令ニ依リ設立セラレタル會社、國家總動員法其ノ他經濟ノ統制ヲ目的トスル法令ニ依リ統制若ハ統制ノ爲ニスル經營ヲ爲ス會社若ハ組合又ハ此等ニ準ズルモノノ役員其ノ他ノ職員若ハ役員其ノ他ノ職員タリシ者自己又ハ第三者ノ要求若ハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲サザルトキハ七年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ會社、組合及此等ニ準スルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 前條第一項ニ掲グル役員其ノ他ノ職務ニ關シ請託ヲ受ケテ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ同項ニ掲グル役員其ノ他ノ職員ト爲リタル場合ニ於テ二年以下ノ懲役ニ處ス

前條第一項ニ掲グル役員其ノ他ノ職務ニ關シ請託ヲ受ケテ職務ノ當該者其ノ在職中請託ヲ受ケテ職務タリシ者其ノ在職中請託ヲ受ケテ職務

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム戰時終了ノ際ニ於テ必要ナル經過規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

上不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲サザリシコトニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス

テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第四條 第二條第一項及前條ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第五條 第二條第一項及第三條ニ規定スル賄賂ヲ供與シ又ハ其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕シ又ハ免除スルコトヲ得

第六條 公務員若ハ公務員タリシ者又ハ會社及組合竝ニ此等ニ準ズルモノ(以下經濟團體ト稱ス)ニシテ勅令ヲ以テ定ムルモノノ役員其ノ他ノ職員若ハ役員其ノ他ノ職員タリシ者自己又ハ第三者ノ利益ヲ圖リ重要物資ノ生産、配給又ハ消費ノ統制其ノ他經濟ノ統制ニ關スル官廳又ハ當該經濟團體ノ重要ナル祕密ニシテ職務上知得シタルモノヲ漏泄シ又ハ竊用シタルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第七條 經濟團體ノ行フ統制事務若ハ統制ノ爲ニスル經濟事務ヲ代行スル法人ノ役員其ノ他ノ職員又ハ人若ハ其ノ使用者ニシテ當該事務ニ從事スルモノハ本法ノ適用ニ付テハ之ヲ當該經濟團體ノ當該事務ニ從事スル職員ト看做ス

第八條 第二條第一項、第三條及第六條ノ罪ハ刑法第四條ノ例ニ從フ

第十條 日本證券取引所法中左ノ通改正ス

第八十五條中「五千圓以下ノ罰金」ヲ「一年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金」ニ改ム

第八十六條中「漏洩」ヲ「漏泄」ニ、「三千圓以下ノ罰金」ヲ「二年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金」ニ改ム

第十一條 外國爲替管理法中左ノ通改正ス

第十四條中「漏洩」ヲ「漏泄」ニ、「一千圓以下ノ罰金」ヲ「二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金」ニ改ム

第十二條 國家總動員法中左ノ通改正ス

第十四條及第四十七條 削除

第十三條 昭和十二年法律第九十二號中左ノ通改正ス

第十五條 食糧管理法中左ノ通改正ス

第十四條 農地開發法中左ノ通改正ス

第十六條 糜絲業統制法中左ノ通改正ス

第十七條 酒類業團體法中左ノ通改正ス

第十八條 醫藥專賣法中左ノ通改正ス

第十九條 第四十條ノ三及第四十條ノ四ヲ削ル

第二十條 自動車交通事業法中左ノ通改正ス

第二十一條 貿易組合法中左ノ通改正ス

第二十二條 海運組合法中左ノ通改正ス

第二十三條 造船事業法中左ノ通改正ス

第二十四條 貸家組合法中左ノ通改正ス

第二十五條 市街地信用組合法中左ノ通改正ス

第二十六條 農業團體法中左ノ通改正ス

第二十七條 水產業團體法中左ノ通改正ス

第五十八條及第五十九條 削除

第九條 第九十二條中「第八十九條」ヲ「前條」ニ改メ「第九十條ニ掲グル罪ハ刑法第四條ノ例ニ」ヲ削リ同條ヲ第九十條トス

第八十二條及第三十七條ヲ削リ第三十條ヲ第三十六條、第三十九條ヲ第三十二條及第三十六條削除

第十九條 馬匹組合法中左ノ通改正ス

第四十五條及第四十六條ヲ削リ第四十條ヲ第四十五條トス

第五十九條中「第五十六條第一項」ヲ「前條」ニ改ム

第六十條ノ十九ヲ第十條ノ十七トス

第五十條ノ十七及第十條ノ十八ヲ削リ第十六條中左ノ通改正ス

第五十一條及第五十二條ヲ削除

第五十二條及第五十三條ヲ削除

第五十三條ヲ削除

第五十四條乃至第五十條 削除

第五十五條 市街地信用組合法中左ノ通改正ス

第五十六條及第五十七條 削除

第五十七條中「第五十六條第一項ニ掲グル者」ヲ「市街地信用組合法中左ノ通改正ス

第五十八條中「第五十六條第一項ニ掲グル者」ヲ「市街地信用組合法中左ノ通改正ス

第五十九條中「第五十六條第一項」ヲ「前條」ニ改ム

第六十條ノ十九ヲ第十條ノ十七トス

第六十一條及第六十二條ヲ削除

第六十二條及第六十三條ヲ削除

第六十三條及第六十四條 削除

第六十四條農地開發法中左ノ通改正ス

第六十五條食糧管理法中左ノ通改正ス

第六十六條及第六十七條 削除

第六十七條及第六十八條 削除

第六十八條鹽業團體法中左ノ通改正ス

第六十九條鹽業團體法中左ノ通改正ス

第七十條及第七十一條 削除

第七十一條及第七十二條 削除

第七十二條及第七十三條 削除

第七十三條中「第四十五條」ヲ下ニ「(第

第七十四條及第七十五條)」ヲ加フ

第七十五條及第六十六條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム」ヲ加フ

第七十六條農業團體法中左ノ通改正ス

第七十七條及第七十八條 削除

第七十八條商工組合法中左ノ通改正ス

第七十九條及第八十條 削除

第八十二條及第八十三條 削除

第八十四條中「、第八十二條ニ掲タル罪

ハ刑法第四條ノ例ニ「ヲ削ル

本法施行前爲シタル行爲ノ  
處罰ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

〔國務大臣岩村通世君登壇〕

國務大臣（岩村通世君）

○國務大臣(岩村謹世君) 只今上程ニ相成  
リマシタ訴訟費用等臨時措置法案外ニ法律  
案ニ付キマシテ提案ノ理由ヲ御説明申上ゲ  
マス

リマスルガ、現在行ハレテ居リマスル民事及ビ刑事ノ訴訟費用、執達吏ノ手數料竝ニ執達吏ニ對スル補助金等ノ額ハ、何レモ今カラ二十數年前ニ改メラレタ儘、其ノ後一回ノ改正モ加ヘラル、コトナク今日ニ及シ

テ居ルノテアリマシテ、現下ノ諸情勢ヨリ  
考ヘマスル時ハ明カニ低額ニ失シ、之ヲ放  
置致シマスルコトハ、訴訟關係人及ビ執達  
吏ニ對シ多大ノ不利不便ヲ強要ヘル結果ト  
ナリ、延イテハ決戦態勢下ニ於テ訴訟ノ促  
進ヲ旨トスペキニ拘ラズ、之ヲ阻碍スルノ  
虞モ多分ニアルト存ズルノデアリマス、仍  
テ、今回右ノ訴訟費用、手數料等ニ付キ臨

時ハ特例ニ設ケテ其ノ調整ニ圖ル爲ニ本策ヲ提出致シタ次第デゴザイマス

次ニ會社等臨時措置法案ノ提出ノ理由ヲ  
御説明致シマス、政府ニ於キマシテハ曩ニ  
行政事務ノ簡素強化ヲ圖リ、著々其ノ實績  
ヲ擧ゲテ居ルノデアリマスルガ、民間ニ於  
ケル會社其ノ他ノ法人企業ニ付キマシテモ、  
能フ限り手續等ヲ簡易ニシ、以テ勞力、費  
用、資材等ノ節約ヲ期シ、其ノ餘力ハ全部  
之ヲ戰力増強ニ振向ケル必要ノアルコトハ  
申スマデモアリマセヌ、是ガ爲メ商法其ノ

他法人ニ關スル諸法令ヲ研究調査致シ、戰時下特ニ簡素化スルヲ相當ト認メマシタ事項ニ付キ、大東亞戰爭中ノ特例ヲ設ケントスル次第アリマス、其ノ特例ト致シマシテ、第一ハ比較的規模ノ小ナル株式會社ノ公告方法ヲ緩和シ、第二ハ株主多數ヲ擁スル株式會社ノ株主總會ノ招集ハ、定款ノ定期ムル所ニ依リ公告ノ方法ヲ以テ之ヲナスコトヲ得ルモノトシ、此ノ場合ニ於ケル定款ノ變更其ノ他ノ特別決議ニ付キ足定數ノ緩和規定ヲ設ケ、又一般ノ株式會社ニ於テ株主ノ利害ニ重大ナル影響ヲ及ボサザル事項ニ付テハ、總會ノ決議ニ依ラズ、任意ニ定款ヲ以テ定ムル方法ニ依リ決スルコトヲ得ルノ途ヲ拓キ、第三ハ一定ノ株式會社ノ社債ノ登記ニ付キ、第四ハ、會社ノナスベキ公告、財產目錄其ノ他ノ書類ノ謄本及び抄本ノ交付等、又第五ハ一定ノ會社ノ合併又ハ資本ノ減少ノ場合ニ於テ債權者ニ對シテナス催告等ニ付キ、何レモ勅令ヲ以テ是ガ簡素化ノ特例ヲ認ムルコトヲ得ルモノト致スノデアリマス、此ノ特例ノ大部分ハ、必要ナル限度ニ於キマシテ會社以外ノ或ル種ノ法人ニモ準用シ、以テ手續ノ簡素強力化ヲ圖ル次第アリマス

次ニ經濟關係罰則ノ整備ニ關スル法律案ニ付キ提案ノ理由ヲ御説明申上ダマス、現下ノ決戰態勢ニ即應致シマシテ、經濟統制ノ圓滑ナル遂行ヲ期シテ參リマス爲ニハ、經濟犯ノ防遏ニ一層ノ努力ヲ致シマスルト共ニ、經濟統制ノ運用ノ中核ヲナス官吏、其ノ他ノ公務員竝ニ其ノ運用ノ實際ヲ擔當スル經濟團體ノ役職員ノ瀆職ニ關スル處罰規定ヲ整備シ、尙經濟統制ニ關スル祕密

濟關係罰則ノ統一ヲモ期スルノ必要ガアル  
ノデアリマス、而シテ是等ノ中官吏其ノ  
他ノ公務員ノ瀆職ニ關スル處罰規定ニ  
付キマシテハ、戰時刑事特別法中改正  
法律案ニ依リマシテ、所要ノ整備ガ行ハレ、  
既ニ其ノ實施ヲ見タ所デアリマス、其ノ他ノ  
點ニ付キマシテモ、政府ト致シマシテハ、  
豫テヨリ深キ關心ヲ有シテ居ツクノデアリ  
マシタガ、偶々去ル第八十一回帝國議會ニ於  
ケル法案ノ審議ノ際ノ御論議ノ次第モアリ、  
司法省内ニ經濟關係罰則調査委員會ヲ設  
ケ、現行法規ノ不備缺陷ノ是正ト刑罰ノ統  
一トヲ期シ得ル法律案ノ作成ニ努力シ、本  
法案ハ、右ノ委員會ノ答申ニ基キ、且ツ經  
濟統制進展ノ實情ヲモ慎重ニ考慮致シマシ  
テ、時局下眞ニ已ムヲ得ザル範圍ノ經濟關  
係罰則ノ整備ヲ行ハントスルモノデアリマ  
ス、本法案ノ骨子ハ、之ヲ要約シテ申上ゲ  
マスレバ、次ノ四點ニ歸スルノデアリマス、  
第一ハ、經濟團體ノ役職員ノ瀆職ニ關スル  
處罰規定ヲ整備シ、其ノ刑ヲ加重スルト共  
ニ、是ガ統一ヲ圖ラントスルモノデアリマ  
ス、即チ經濟團體ノソレハノ性質職能ニ  
鑑ミ、瀆職ニ關スル處罰規定ヲ適當ニ整備  
統一シマスルト共ニ、刑ノ加重ヲモ行ヒ、  
併セテ此ノ種ノ規定ノ不備トセラレテ居リ  
マシタ所謂經濟會社及ビ代行機關ノ瀆職行  
爲ニ付キ、是ガ處罰規定ヲ新設セントスル  
モノデアリマス、第二ハ經濟ノ統制ニ關ス  
ル重要ナル祕密ノ漏泄等ヲ防遏スル爲メ、  
必要ナル處罰規定ヲ新設セントスルモノデ  
アリマス、經濟祕密ノ保護ハ、軍機及ビ國  
家機密等ノ保護ニ比較致シマスルト、未ダ  
十分ナラザルモノガアリマスルノデ、本法

案ハ是ガ不備ヲ補フ爲メ、經濟ノ統制ニ關スル官廳、又ハ經濟團體ノ重要ナル祕密ノ保護ヲ期シ、公務員又ハ經濟團體ノ役職員等ニシテ、自己又ハ第三者ノ利益ヲ圖リ、是等ノ祕密ヲ他ニ漏泄又ハ竊用シタルモノニ對スル處罰規定ヲ新設セントスルモノデアリマス、第三ハ日本證券取引所法及外國爲替管理法ノ祕密漏泄等ニ關スル處罰規定ニ付キ、ソレゾレ相當ナル刑ノ加重ヲ爲シ、他ノ同種ノ刑罰トノ均衡ヲ得シメントスルモノデアリマス、第四ハ、以上ノ措置ニ伴ヒ、關係法律ノ條文ノ整理ヲ行ハントスルモノデアリマス、何卒慎重御審議ニ上三法案ニ對シ何レモ御協賛ヲ與ヘラレンコトヲ切望致シマス（拍手）



障害手當金、結婚手當金又ハ第四十二条ノ二ノ規定ニ依ル一時金ヲ受クル權利ハ一年ヲ經過シタルトキ、養老年金、障害年金、遺族年金、脱退手當金又ハ第三十三條、第三十四條、第三十八條乃至第三十九條ノ二、第四十七條若ハ第五十一條ノ規定ニ依ル一時金ヲ受クル權利ハ五年ヲ經過シタルトキハ時效ニ因リテ消滅ス。

第十一條第三項中「市町村」ヲ「市町村(東京都ノ區ノ存スル區域ニ於テハ東京都)」ニ、同條第四項中「市町村ニ」ヲ「市町村(東京都ノ區ノ存スル區域ニ於テハ東京都)ニ」、第五項中「市町村ハ」ヲ「市町村(東京都ノ區ノ存スル區域ニ於テハ東京都ハ)」ニ改ム。

第十四條中「政府ノ事業ニ使用セラルル者及使用セラレタル者」ヲ「國ノ事業ニ使用セラルル者及使用セラレタル者並ニ東京都、北海道、府縣、市町村其ノ他之ニ準ズベキモノニ使用セラルル者」ニ改ム。

第十六條 健康保険法第十三條ニ規定スル事業所ニ使用セラルル者ハ厚生年金保険ノ被保險者トシ左ノ各號ノニニ該當スル者ハ此ノ限ニ在ラズ。

一 船員保険ノ被保險者

二 帝國臣民ニ非ザル者

三 前各號ニ掲グル者ノ外勅令ヲ以テ指定スル者

第十六條ノ二 前條ニ規定スル事業所以外ノ事業所ノ事業主ハ地方長官(東京都ニ在リテハ警視總監以下同ジ)ノ認可ヲ受ケ其ノ事業所ニ使用セラルル者ヲ包括シテ厚生年金保険ノ被保險者ト爲スコトヲ得。

前項ノ認可ヲ申請スルニハ被保險者ト爲ルペキ者ノ二分ノ一以上ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス。

院議事速記録第六號 勞動者年金保險法  
第十六條ノ三 前條ノ認可アリタルトキ  
ハ其ノ事業所ニ使用セラルル者ハ厚生  
年金保險ノ被保險者トス  
第十六條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之  
(ヲ準用ス)  
第十七條第一項及第二項ヲ左ノ如ク改ム  
第十六條ニ規定スル事業所又ハ第十六  
條ノ二ノ認可アリタル事業所以外ノ事  
業所ニ使用セラルル者ハ地方長官ノ認  
可ヲ受ケ厚生年金保險ノ被保險者ト爲  
ルコトヲ得  
第十六條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之  
(ヲ準用ス)  
第十八條 第十六條ノ事業所ガ同條ノ規  
定ニ該當セザルニ至リタルトキハ其ノ  
事業所ニ付第十六條ノ二ノ認可アリタ  
ルモノト看做ス  
第十九條中「第十六條ノ規定ニ依ル被保  
險者ハ其ノ業務ニ使用セラルルニ至リ  
タル日又ハ同條但書」ヲ「第十六條及第  
十六條ノ三ノ規定ニ依ル被保險者ハ其  
ノ事業所ニ使用セラルルニ至リタル日又  
ハ第十六條但書若ハ第十六條ノ三第二  
項」ニ改ム  
第二十條中「第十六條及第十七條ノ規定  
ニ依ル被保險者ハ死亡シタル日、其ノ  
業務ニ使用セラレザルニ至リタル日又  
ハ第十六條第四號乃至第六號」ヲ「第  
六條、第十六條ノ三及第十七條ノ規定ニ  
依ル被保險者ハ死亡シタル日、其ノ事業  
所ニ使用セラレザルニ至リタル日又ハ第  
十六條但書」第十六條ノ三第二項」ニ改  
ム

第一項ノ認可アリタルトキハ被保險者ハ認可アリタル日ノ翌日ヨリ其ノ資格ヲ喪失ス  
改ム  
第二十三條第一項中「第十六條及第十七條」ヲ「第十六條、第十六條ノ三及第十七條」ニ改ム  
第二十六條中「遺族年金又ハ第三十三條、第三十四條、第三十八條、第三十九條若ハ第四十七條ノ規定ニ依ル一時金」ヲ「遺族年金、第三十三條、第三十四條、第三十八條乃至第三十九條ノ二若ハ第四十七條ノ規定ニ依ル一時金又ハ第三十條ノ二ノ規定ニ依ル支給金」ニ改ム  
第二十七條、第四十一條、第五十條、第五十一條、第五十四條及第五十五條中「廢疾年金」ヲ「障害年金」ニ改ム  
第三十條ノ次ニ左ノ一條ヲ加エ  
第三十條ノ二 保険給付ヲ受クル権利ヲ有スル者ガ死亡シタル場合ニ於テ其ノ者ガ支給ヲ受クベキ保険給付ニシテ未ダ其ノ支給ヲ受ケザリシモノ又ハ被保險者若ハ被保險者タリシ者ガ死亡シタルニ因リ支給スベキ脱退手當金ハ之ヲ被保險者タリシ者ノ遺族ニ支給ス  
第三十一條第二項ヲ左ノ如ク改ム  
坑内夫タル被保險者トシテノ被保險者タリシ期間ガ二十年以上ナル者ニ付テハ前項ノ規定ニ拘ラズ其ノ者ガ被保險者ノ資格ヲ喪失シタルトキヨリ其ノ者ノ死亡ニ至ル迄養老年金ヲ支給ス繼續シタル十五年間ニ於テ坑内夫タル被保險者トシテノ被保險者タリシ期間ガ十六年以上ナル者ニ付亦同ジ

第三十二條 養老年金ノ額ハ被保險者タ  
リン全期間ノ平均報酬月額（以下平均  
報酬月額ト稱ス）ノ四月分ニ相當スル  
金額トシ被保險者タリシ期間二十年以  
上一年ヲ増ス毎ニ其ノ一年ニ對シ平均  
報酬日額（平均報酬月額ノ三十分ノ一  
ノ額トス以下同ジ）ノ四日分ニ相當ス  
ル金額ヲ加ヘタル金額トス  
同一ノ事業主ノ事業所又ハ同一ノ事業  
所ニ於テ引續キ被保險者タリシ期間十  
年以上ナル者ニ關シテハ其ノ者ニ支給  
セラル養老年金ノ額ハ前項ノ金額ヲ  
其ノ期間ノ初ノ十年ニ對シ平均報酬日  
額ノ四日分ニ相當スル金額ヲ、十年以  
上五年ヲ増ス毎ニ其ノ五年ニ對シ平均  
報酬日額ノ四日分ニ相當スル金額ヲ加  
ヘタル金額トス

### 第三十七條 障害年金ノ額ハ左ノ區別ニ

第三十七條 障害年金ノ額ハ左ノ區別ニ依ル  
一 被保險者又ハ被保險者タリシ者ガ

業務上ノ事由ニ因リ癒疾ト爲リタル場合ニ於テハ平均報酬月額ニ癒疾ノ程度ニ應ジ別表第一ニ定ムル月數ヲ乗ジテ得タル金額ニ相當スル金額

被保險者タリシ期間二十年以上ナル者ニ關シテハ其ノ者ニ支給セラル障害年金ノ額ハ前項ノ金額ニ二十年以上一年ヲ増ス毎ニ其ノ一年ニ對し平均報酬日額ノ四日分ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス同一ノ事業主ノ事業所又ハ同一ノ事業所ニ於テ引續キ被保險者タリシ期間十年以上ナル者ニ關シテハ其ノ者ニ支給セラル障害年金ノ額ハ第二項又ハ前項ノ金額ニ其ノ期間ノ初ノ十年ニ對シ平均報酬日額ノ四日分ニ相當スル金額ヲ、十年以上五年ヲ増ス毎ニ其ノ五年ニ對シ平均報酬日額ノ四日分ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス前三項ノ規定ニ拘ラズ障害年金ノ額ハ平均報酬月額ノ十二月分ニ相當スル金額ヲ超エルコトヲ得ズ第三十七條ノ二 障害手當金ノ額ハ左ノ區別ニ依ル金額トス一 被保險者又ハ被保險者タリシ者ガ業務上ノ事由ニ因リ癱瘓ト爲リタル場合ニ於テハ平均報酬月額ニ癱瘓ノ程度ニ應ジ別表第二ニ定ムル月數ヲ乗シテ得タル金額業務外ノ事由ニ因リ癱瘓疾ト爲リタル

場合ニ於テハ平均報酬月額ノ十月分

第三十八條 業務上ノ事由ニ因ル癡疾ト  
爲リタルニ因リ障害年金ノ支給ヲ受ク  
ル者又ハ被保險者タリシ期間二十年以  
上ナル者ニシテ業務外ノ事由ニ因ル癡  
疾ト爲リタルニ因リ障害年金ノ支給ヲ  
受クルモノガ業務外ノ事由ニ因リ死亡  
シタル際其ノ者ノ死亡ニ關シ遺族年金  
ノ支給ヲ受クベキ者ナキ場合ニ於テ既  
ニ支給ヲ受ケタル障害年金ノ總額ガ障  
害年金ノ六年分ニ相當スル金額ニ満タ  
ザルトキハ其ノ差額ヲ一時金トシテ其  
ノ遺族ニ支給ス

年ヲ増ス毎ニ其ノ一年ニ對シ平均報酬  
所ニ於テ引續キ被保險者タリシ期間十  
年以上ナル者ニ關シテハ其ノ遺族ニ支  
給セラルル一時金ノ額ハ第一項又ハ前  
項ノ額ニ其ノ期間ノ初ノ十年ニ對シ  
平均報酬日額ノ二十四日分ニ相當スル  
金額ヲ、十年以上五年ヲ増ス毎ニ其ノ  
五年ニ對シ平均報酬日額ノ二十四日分  
ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス  
第一項ノ場合ニ於テ業務上ノ事由ニ因  
ル癒疾ト爲リタルニ因リ障害年金ノ支  
給ヲ受クル者ニ關シテハ其ノ者ガ既ニ  
支給ヲ受ケタル障害年金ノ總額ガ障害  
年金ノ六年分ニ相當スル金額ニ満タザ  
ル場合ニ於テ其ノ差額ガ第一項、第二  
項又ハ前項ノ額ヲ超ニルトキハ其ノ  
超ニル部分ノ金額ニ相當スル金額ヲ第  
一項、第二項又ハ前項ノ金額ニ加ヘテ  
其ノ遺族ニ支給ス

ノ額ヲ以テ改定障害年金ノ額トス  
第四十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場  
合ニ於テハ被保險者タリシ者ノ遺族ニ  
對シ遺族年金ヲ支給ス

一 被保險者タリシ期間二十年以上ナ  
ル者ガ業務外ノ事由ニ因リ死亡シタ  
ルトキ

二 業務上ノ事由ニ因ル癡疾ト爲リタ  
ルニ因リ障害年金ヲ支給ヲ受クル者ガ  
業務外ノ事由ニ因リ死亡シタルトキ

三 被保險者又ハ被保險者タリシ者ガ  
業務上ノ事由ニ因リ第三十九條ノ二  
第一項ノ規定ニ依ル勅令ノ定ムル期  
間内ニ死亡シタルトキ

第四十五條 遺族年金ノ額ハ左ノ區別ニ  
依ル金額トス

一 養老年金ノ支給ヲ受クル者又ハ業  
務外ノ事由ニ因ル癡疾ト爲リタルニ  
因リ障害年金ノ支給ヲ受クル者ガ業  
務外ノ事由ニ因リ死亡シタル場合ニ  
於テハ其ノ者ニ支給セラル養老年  
金又ハ障害年金ノ額ノ二分ノ一ニ相  
當スル金額

二 被保險者タリシ期間二十年以上ナ  
ル者ガ養老年金ノ支給ヲ受クルコト  
ナクシテ業務外ノ事由ニ因リ死亡シ  
タル場合ニ於テハ其ノ者ガ支給ヲ受  
クルコトヲ得ベカリシ養老年金ノ額  
ノ二分ノ一ニ相當スル金額

三 業務上ノ事由ニ因ル癡疾ト爲リタ  
ルニ因リ障害年金ノ支給ヲ受クル者  
ガ業務外ノ事由ニ因リ死亡シタル場  
合ニ於テハ平均報酬月額ノ二月半分  
ニ相當スル金額

四 被保險者又ハ被保險者タリシ者ガ  
業務上ノ事由ニ因リ第三十九條ノ二  
第一項ノ規定ニ依ル勅令ノ定ムル期  
間内ニ死亡シタル場合ニ於テハ平均

報酬月額ノ五月分ニ相當スル金額  
前項第三號又ハ第四號ノ場合ニ於テ被  
保險者タリシ期間二十年以上ナル者ニ  
關シテハ其ノ遺族ニ支給セラル遺族  
年金ノ額ハ二十年以上一年ヲ増ス毎ニ  
其ノ一年ニ對シ平均報酬日額ノ二日分  
ニ相當スル金額ヲ同項第三號又ハ第四  
號ノ金額ニ加ヘタル金額トス

第一項第三號又ハ第四號ノ場合ニ於テ  
同一ノ事業主ノ事業所又ハ同一ノ事業  
所ニ於テ引續キ被保險者タリシ期間十  
年以上ナル者ニ關シテハ其ノ遺族ニ支  
給セラル遺族年金ノ額ハ其ノ期間ノ  
初ノ十年ニ對シ平均報酬日額ノ二日分  
ニ相當スル金額ヲ、十年以上五年ヲ增  
ス毎ニ其ノ五年ニ對シ平均報酬日額ノ  
二日分ニ相當スル金額ヲ第一項第三號  
若ハ第四號又ハ前項ノ金額ニ加ヘタル  
金額トス

第四十五條ノ二 遺族年金ノ支給ヲ受ク  
ベキ遺族ノ範圍ニ屬スル子（現ニ遺族  
年金ノ支給ヲ受クル子ヲ除ク）アルト  
キハ其ノ子一人ニ付平平均報酬日額ノ十  
日分ニ相當スル金額ヲ前條各項ノ金額  
ニ加給ス

第四十六條ノ二 遺族年金ノ支給ヲ受ク  
ル者ガ一年以上所在不明ナルトキハ次  
順位者ノ申請ニ依リ所在不明中遺族年  
金ノ支給ヲ停止スルコトヲ得  
前項ノ規定ニ依リ遺族年金ノ支給ヲ停  
止シタル場合ニ於テハ停止期間中遺族  
年金ハ之ヲ當該次順位者ニ轉給ス

第四十七條 遺族年金ノ支給ヲ受クル者  
ガ遺族年金ヲ受クル權利ヲ失ヒタル場  
合ニ於テ遺族年金ノ支給ヲ受クベキ後  
順位者ナキトキハ左ノ區別ニ依ル金額  
ヲ一時金トシテ被保險者タリシ者ノ遺  
族ニ支給ス

一 養老年金又ハ障害年金ノ支給ヲ受  
一 養老年金又ハ障害年金ノ支給ヲ受

クル者ガ業務外ノ事由ニ因リ死亡シ  
タルニ因リ遺族年金ノ支給ヲ受ケタ  
ル場合ニ在リテハ既ニ支給ヲ受ケタ  
ル養老年金又ハ障害年金ト其ノ遺族  
ガ其ノ者ノ死亡ニ關シ支給ヲ受ケタ  
ル遺族年金トノ合算額ガ養老年金又  
ハ障害年金ノ六年分ニ相當スル金額  
ニ満タザルトキハ其ノ差額  
二 被保險者タリシ期間二十年以上ナ  
ル者ガ養老年金ノ支給ヲ受ケタルコト  
ナクシテ業務外ノ事由ニ因リ死亡シ  
タルニ因リ遺族年金ノ支給ヲ受ケタ  
ル場合ニ在リテハ其ノ者ノ死亡ニ關シ  
既ニ支給ヲ受ケタル遺族年金ノ總額  
ガ其ノ者ノ支給ヲ受クルコトヲ得ベ  
カリシ養老年金ノ六年分ニ相當スル  
金額ニ満タザルトキハ其ノ差額  
三 被保險者又ハ被保險者タリシ者ガ  
業務上ノ事由ニ因リ第三十九條ノ二  
第一項ノ規定ニ依ル勅令ノ定ムル期  
間内ニ死亡シタルニ因リ遺族年金ノ  
支給ヲ受ケタル場合ニ在リテハ其ノ  
者ノ死亡ニ關シ既ニ支給ヲ受ケタル  
遺族年金ノ總額ガ同條各項ノ區分ニ  
準ジ其ノ一時金ニ相當スル金額ニ満  
タザルトキハ其ノ差額  
第四十九條ノ三 被保險者タリシ期間六  
月以上三年未滿ナル者ガ業務外ノ事由  
ニ因リ死亡シタルトキ其ノ仙命令ヲ以  
テ定ムル場合ニ於テハ第四十八條第一  
項ノ規定ニ拘ラズ勅令ノ定ムル所ニ依  
リ脱落手當金ヲ支給ス

第五十一條ノ二 被保險者タリシ期間三  
年以上ナル女子タル被保險者ガ婚姻シ  
タルトキ又ハ被保險者ノ資格喪失後一  
年以内ニ婚姻シタルトキハ平均報酬月  
額ノ六月分ニ相當スル金額ノ結婚手當  
金ヲ支給ス但シ既ニ結婚手當金ノ支給  
ヲ受ケタル者ニハ之ヲ支給セズ

第五十二條第一項中「廢疾年金、廢疾手當金」  
ヲ「障害年金、障害手當金又ハ第四十  
二條ノ二ノ規定ニ依ル一時金」ニ改ム  
第五十七條第二項中「前項ヲ「前項及第  
三條、第三十四條、第三十八條乃至第三  
十九條ノ二若ハ第四十七條」ニ改メ「被保  
險者タリシ者」ノ下ニ「第三十九條若ハ第  
三十條ノ二ノ規定ニ依ル支給金、第三十  
三條、第三十四條、第三十八條乃至第三  
十九條ノ二若ハ第四十七條」ニ改メ「被保  
險者タリシ者」ノ下ニ「第三十九條若ハ第  
四十條ノ二ノ規定ニ依ル支給金ノ支給ヲ受クル者」  
ノ規定ニ依ル支給金ノ支給ヲ受クル者」  
ヲ加フ

第五十三條中「廢疾年金又ハ廢疾手當金」  
ヲ「障害年金、障害手當金又ハ第四十  
二條ノ二ノ規定ニ依ル一時金」ニ改ム  
第五十九條第一項中「勞動者年金保險事  
業」ヲ「厚生年金保險事業」ニ改ム  
第五十八條第一項中「勞動者年金保險事  
業」ヲ「厚生年金保險事業」ニ改ム  
第五十九條ノ二 被保險者ガ陸海軍ニ徵  
集又ハ召集セラレタル場合ニ於テハ勅  
令ノ定ムル所ニ依リ其ノ期間保險料ヲ  
徵收セズ

第七十條ノ二 大東亞戰爭ニ際シ被保險  
者ガ坑内夫タル被保險者トシテ使用セ  
ラレタルトキハ其ノ期間ニ於ケル被保  
險者タリシ期間ニ三分ノ一ヲ乘ジタル  
期間ヲ加算ス

前項ノ規定ニ依リ加算ノ認メラルベキ  
期間其ノ他加算ニ關シ必要ナル事項ハ  
命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十條ノ三 國庫ハ第五十七條第一項  
ノ規定ニ拘ラズ前條ノ規定ニ依リ增加

テハ第四十九條及第四十九條ノ二ノ規  
定ニ拘ラズ勅令ノ定ムル所ニ依リ脱落  
手當金ヲ支給ス

前項ノ規定ニ依リ被保險者タリシ者ト  
シテ脱落手當金ノ支給ヲ受ケタル者ニ  
ハ結婚手當金ヲ支給セズ

第五十二條第二項及第三項ノ規定ハ第  
一項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五十二條第一項中「廢疾年金、廢疾手當  
金」ヲ「障害年金、障害手當金、第四十二  
條ノ二ノ規定ニ依ル一時金」ニ、同條第二  
項中「第三十三條、第三十四條、第三十八  
條、第三十九條若ハ第四十七條」ヲ「第  
三十條ノ二ノ規定ニ依ル支給金、第三十  
三條、第三十四條、第三十八條乃至第三  
十九條ノ二若ハ第四十七條」ニ改メ「被保  
險者タリシ者」ノ下ニ「第三十九條若ハ第  
四十條ノ二ノ規定ニ依ル支給金ノ支給ヲ受クル者」  
の規定ニ依ル支給金ノ支給ヲ受クル者」  
ヲ加フ

第五十三條中「廢疾年金又ハ廢疾手當金」  
ヲ「障害年金、障害手當金又ハ第四十  
二條ノ二ノ規定ニ依ル一時金」ニ改ム  
第五十七條第二項中「前項ヲ「前項及第  
三條、第三十四條、第三十八條乃至第三  
十九條ノ二若ハ第四十七條」ニ改メ「被保  
險者タリシ者」ノ下ニ「第三十九條若ハ第  
四十條ノ二ノ規定ニ依ル支給金、第三十  
三條、第三十四條、第三十八條乃至第三  
十九條ノ二若ハ第四十七條」ニ改メ「被保  
險者タリシ者」ノ下ニ「第三十九條若ハ第  
四十條ノ二ノ規定ニ依ル支給金ノ支給ヲ受クル者」  
の規定ニ依ル支給金ノ支給ヲ受クル者」  
ヲ加フ

第五十九條第一項中「勞動者年金保險事  
業」ヲ「厚生年金保險事業」ニ改ム  
第五十九條ノ二 被保險者ガ陸海軍ニ徵  
集又ハ召集セラレタル場合ニ於テハ勅  
令ノ定ムル所ニ依リ其ノ期間保險料ヲ  
徵收セズ

第七十條ノ二 戰時特例

第七十條ノ二 大東亞戰爭ニ際シ被保險  
者ガ坑内夫タル被保險者トシテ使用セ  
ラレタルトキハ其ノ期間ニ於ケル被保  
險者タリシ期間ニ三分ノ一ヲ乘ジタル  
期間ヲ加算ス

前項ノ規定ニ依リ加算ノ認メラルベキ  
期間其ノ他加算ニ關シ必要ナル事項ハ  
命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十條ノ三 國庫ハ第五十七條第一項  
ノ規定ニ拘ラズ前條ノ規定ニ依リ增加

スペキ保険給付ニ要スル費用ヲ負擔ス  
第七十二條第一項但書中「第三十一條第  
二項後段」ノ下ニ「第三十九條ノ一、第  
四十四條第三號又ハ第四十九條ノ二ヲ  
加ヘ同條第一項但書中「前項」規定ニ依  
リ脱退手當金ヲ「第一項若ハ第四十九條  
ノ三ノ規定ニ依ル脱退手當金、第三十九  
條ノ二ノ規定ニ依ル一時金、第四十四  
條第三項中「前項」第一項及第三項  
ニ改メ同條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ、  
前項ノ規定ニ依リ脱退手當金ヲ支給ア

別表第三	
被保險者タ リシ期間	日數
三年以上	七〇日
四年以上	九〇
五年以上	一一〇
六年以上	一三〇
七年以上	一五〇
八年以上	一七五
九年以上	二〇〇
一〇年以上	二三五
被保險者タ リシ期間	日數
一年以上	四八〇
二年以上	四五〇
三年以上	四七五
四年以上	五一〇

規定施行ノ日前ニ於テ命令ヲ以て定ム  
ル事由ニ因リ被保険者ノ資格ヲ喪失シ  
タル場合ニ於テハ第四十八條第一項ノ  
改正規定ニ拘ラズ勅令ノ定ムル所ニ依  
リ脱退手當金ヲ支給ス

從前ノ第七十二條第一項又ハ第二項ノ  
規定ニ依リ脱退手當金ノ支給ヲ受クル  
者ニハ前項ノ規定ニ依ル脱退手當金ヲ  
支給セズ

第四十九條ノ二若ハ第五十一條ノ三第一項ノ規定ニ該當スル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ前項ノ規定ニ依リ脱退手當金ノ支給ヲ受クル者ニハ第四十九條ノ三ノ規定ニ依ル脱退手當金ヲ支給セズ厚生年金保険法第二十五條但書ノ規定ハ第一項ノ場合ニ之ヲ適用セズ但シ第二十四條ノ改正規定ニ依リ計算シタル期間一年未満ナル者ノ坑内夫タル被保険者トシテ使用セラレタル實期間ニ關シテハ第二十四條ノ改正規定ニ依リ

第五條 第十六條ノ改正規定及第十六條  
三、現三十二坡果實者、爲上。

險給付三關スル改正規宗施行ノ日ノ前  
日迄第五十八條ノ改正規定及厚生年金  
保險法第五十九條乃至第六十一條ノ規  
定ハ之ヲ適用セズ

第五條 第十六條ノ改正規定及第十六條ノ三ノ規定ニ依リ被保險者ト爲リタル者（從前ノ第十六條ノ規定ニ依リ被保險者タリ得ル者ヲ除ク）ニ關シテハ保険合規ニ關スレ文三覽三卷丁ノ前

二	三	四	五	六	七
級	級	級	級	級	級
五	五	六	六	六	七
•	•	•	•	•	•
○	五	○	○	五	○

被 保 險 者 タ イ ム ス	日 數
三 年 以 上	一 二 〇
四 年 以 上	一 五 〇
五 年 以 上	一 八 〇
六 年 以 上	二 一 〇

別表第		癥疾ノ程度			月	數
四	三	二	一	級		
級	級	級	級	級	月	數
一	一	二	二	二	五月	
二	五	○	○	○	五月	

被保険期間 者タ	日 數	被保険期間 者タ	日 數
三年以上	一二〇	二年以上	三九五
四年以上	一五〇	三年以上	四三〇
五年以上	一八〇	四年以上	四六五
六年以上	二一〇	五年以上	五〇〇
七年以上	二四〇	六年以上	五四〇
八年以上	二七〇	七年以上	五八〇
九年以上	三〇〇	八年以上	六二〇
一〇年以上	三三〇	九年以上	六六〇
一年以上	三六〇	一九年以上	六六〇

第一條 本法施行ノ期日ハ保険給付ニ關スル改正規定及其ノ他ノ各規定ニ付勅附則

第二條 被保険者タリシ期間六月以上三年未満ナル者ガ保険給付ニ關スル改正



改正法律案ヲ議題トナシ、其ノ審議ヲ進メ  
ラレンコトヲ望ミマス

○副議長(内ヶ崎作三郎君) 森下君ノ動議  
ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○副議長(内ヶ崎作三郎君) 御異議ナシト  
認メマス、仍テ日程ハ追加セラレマシタ――

北支那開發株式會社法及中支那振興株式會  
社法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス――

青木大東亞大臣

北支那開發株式會社法及中支那振興株

式會社法中改正法律案(政府提出、貴族  
院送付)

北支那開發株式會社法及中支那振興株  
式會社法中改正法律案

第一條 北支那開發株式會社法中左ノ通  
改正ス

第三章中第十四條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第十四條ノ二 北支那開發株式會社ハ  
第二十五條ノ二ノ命令アリタルトキ  
ハ前條ノ業務ノ外當該命令ヲ實行ス  
第十五條第一項中「五倍」ヲ「十倍」ニ  
改ム

第二十五條ノ二 政府ハ北支那開發株  
式會社ニ對シ大東亞戰爭遂行上緊要  
ナル事業ニ對スル投資、融資、設備  
ノ貸付其ノ他當該事業ヲ促進スル爲  
必要ナル事項ヲ爲スペキ旨ノ命令ヲ  
爲スコトヲ得

前條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ  
場合ニ之ヲ準用ス

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
〔國務大臣青木一男君登壇〕

附 則

○國務大臣青木一男君 只今議題トナリ

マシタ北支那開發株式會社法及中支那振興  
株式會社法中改正法律案ニ付キマシテ、其  
ノ提案ノ理由ヲ御説明申上ゲマス

大東亞戰爭完遂ノ爲メ、各種戰力資源ノ  
開發ヲ促進スルコトノ極メテ緊要ナルコト  
ハ申上ガルマデモナイ所アリマスルガ、

戰局ノ進展ニ伴ヒマシテ、支那ニ於ケル鐵  
輕金屬等重要國防資源ノ急速ナル開發ヲ  
促進スルコトト致シタ次第アリマス、

尙ホ現行法ニ依リマスレバ、兩會社ノ社債  
損失ヲ生ジタル場合ニハ、政府ニ於テ之ヲ  
補償スルコトト致シタ次第アリマス、

ノ貨付其ノ他當該事業ヲ促進スル爲  
必要ナル事項ヲ爲スペキ旨ノ命令ヲ  
爲スコトヲ得

前條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ  
場合ニ之ヲ準用ス

第二條 中支那振興株式會社法中左ノ通  
改正ス

改正ス

第三章中第十二條ノ次ニ左ノ一條ヲ加  
フ

第十二條ノ二 中支那振興株式會社ハ  
第十三條ノ二ノ命令アリタルトキ  
ハ前條ノ業務ノ外當該命令ヲ實行ス  
ム

第十三條第一項中「五倍」ヲ「十倍」ニ改  
ム

第十三條ノ二 政府ハ中支那振興株  
式會社ニ對シ大東亞戰爭遂行上緊要  
ナル事業ニ對スル投資、融資、設備  
ノ貸付其ノ他當該事業ヲ促進スル爲  
必要ナル事項ヲ爲スペキ旨ノ命令ヲ  
爲スコトヲ得

前條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ  
場合ニ之ヲ準用ス

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
〔國務大臣青木一男君登壇〕

附 則

○國務大臣青木一男君 只今議題トナリ

マシタ北支那開發株式會社法及中支那振興  
株式會社法中改正法律案ニ付キマシテ、其  
ノ提案ノ理由ヲ御説明申上ゲマス

大東亞戰爭完遂ノ爲メ、各種戰力資源ノ  
開發ヲ促進スルコトノ極メテ緊要ナルコト  
ハ申上ガルマデモナイ所アリマスルガ、

戰局ノ進展ニ伴ヒマシテ、支那ニ於ケル鐵  
輕金屬等重要國防資源ノ急速ナル開發ヲ  
促進スルコトト致シタ次第アリマス、

尙ホ現行法ニ依リマスレバ、兩會社ノ社債  
損失ヲ生ジタル場合ニハ、政府ニ於テ之ヲ  
補償スルコトト致シタ次第アリマス、

ノ貨付其ノ他當該事業ヲ促進スル爲  
必要ナル事項ヲ爲スペキ旨ノ命令ヲ  
爲スコトヲ得

前條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ  
場合ニ之ヲ準用ス

第二條 中支那振興株式會社法中左ノ通  
改正ス

相當ノ困難ト危險トヲ伴フコトヲ覺悟ノ上  
ニ、之ヲ強行推進スルノ必要ガアルノデア  
リマス、而シテ斯カル事態ニ對處致シマス

ル爲ニ、支那ニ於ケル戰時緊要ナル事業ニ  
付キマシテ、特ニ損失補償ノ制度ヲ確立シ、  
以テ企業上ノ不安ヲ除去シ、業者ヲシテ何

要ガアルノデアリマス、此ノ目的ヲ達成ス  
ル爲ニハ、對支關係ヲモ考慮致シマシテ、  
支那ニ於ケル經濟開發ヲ使命ト致シテ居リ

マスル北支那開發株式會社及ビ中支那振興  
株式會社ヲ活用スルヨトガ最モ適當ト存ゼ  
テラマスルノデ、新タニ兩會社ノ機能ヲ擴  
充シ、以テ前述ノ戰時的要請ニ即應セシム  
ルコトト致シタ伊存ズル次第アリマス、  
即チ今次ノ改正法律案ニ於キマシテハ、兩

會社ハ政府ノ命令アリマシタ時ハ、現行法  
ニ定メラレタル業務ノ外、當該命令ヲ實行  
スル爲ニ必要ナル業務ヲ營ムコトヲ得ルノ  
途ヲ開キマスルトトニ、政府ハ兩會社ニ對  
シ、大東亞戰爭遂行上緊要ナル事業ニ對ス  
ル投資、融資、設備ノ貸付、其ノ他當該事  
業ヲ促進スル爲必要ナル事項ヲナスベキ  
コトヲ命ジ得ルノ制度ヲ設ケ、此ノ政府ノ  
命令ニ從ヒ兩會社ガ業務ヲ營ミ、之ニ因リ  
損失ヲ生ジタル場合ニハ、政府ニ於テ之ヲ  
補償スルコトト致シタ次第アリマス、

尙ホ現行法ニ依リマスレバ、兩會社ノ社債  
損失ヲ生ジタル場合ニハ、政府ニ於テ之ヲ  
補償スルコトト致シタ次第アリマス、

ノ貨付其ノ他當該事業ヲ促進スル爲  
必要ナル事項ヲ爲スペキ旨ノ命令ヲ  
爲スコトヲ得

前條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ  
場合ニ之ヲ準用ス

第二條 中支那振興株式會社法中左ノ通  
改正ス

第デゴザイマス、何卒御審議ノ上速力ニ御  
協賛ヲ與ヘラレンコトヲ希望致シマス(拍  
手)

○副議長(内ヶ崎作三郎君) 本案ハ審査ヲ  
付託スベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮り致シマ  
ス

○森下國雄君 本案ハ議長指名十八名ノ委  
員ニ付託シ直チニ委員ヲ指名セラレンコ  
トヲ望ミマス

○副議長(内ヶ崎作三郎君) 森下君ノ動議  
ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○副議長(内ヶ崎作三郎君) 御異議ナシト認  
メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、委員  
ノ氏名ハ書記官ヲシテ報告致サセマス

〔書記官朗讀〕

○副議長(内ヶ崎作三郎君) 本案ハ議長指名十八名ノ委  
員ニ付託シ直チニ委員ヲ指名セラレンコ  
トヲ望ミマス

○副議長(内ヶ崎作三郎君) 森下君ノ動議  
ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○副議長(内ヶ崎作三郎君) 本案ハ議長指名十八名ノ委  
員ニ付託シ直チニ委員ヲ指名セラレンコ  
トヲ望ミマス

提出致シマス、即チ此ノ際政府提出農林中

央金庫特別融通及損失補償法中改正法律案  
及ビ絲價安定施設法廢止及蠶絲業統制法中

改正法律案ノ兩案ヲ一括議題トナシ、其ノ

審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマヌ

○副議長(内ヶ崎作三郎君) 森下君ノ動議

ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ〕

○副議長(内ヶ崎作三郎君) 御異議ナシト

認メマヌ、仍テ日程ハ追加セラレマシタ、

農林中央金庫特別融通及損失補償法中改正

法律案、絲價安定施設法廢止及蠶絲業統制

法中改正法律案、右兩案ヲ一括シテ第一讀

會ヲ開キマス——山崎農商大臣

絲價安定施設法廢止及蠶絲業統制法中  
改正法律案

第一條 絲價安定施設法ハ之ヲ廢止ス

第二條 蠶絲業統制法中左ノ通改正ス

第十三條乃至第十五條 削除

### 附 則

本法ハ昭和十九年四月一日ヨリ之ヲ施行

ス

〔國務大臣山崎達之輔君登壇〕

○國務大臣(山崎達之輔君) 只今上程セラ

レマシタ農林中央金庫特別融通及損失補償

法中改正法律案ノ提案ノ理由ヲ御説明申上

ゲマス

此ノ法律ハ御承知ノヤウニ昭和七年當時

ノ農山漁村ノ經濟恐慌ニ際シマシテ、信用

組合及び信用組合聯合會ノ固定セル債權ノ

資金化ニ依リマシテ、產業組合金融ノ梗塞

ノ緩和シマシテ、是ガ疏遠ヲ圖ルコトヲ目

的トシテ制定サレタモノデアリマス、而シ

テ本法ハ今日マテ相當ノ實績ヲ擧ゲテ參ツ

タノデアリマスガ、昭和十九年九月末日ヲ

以テ其ノ融通期間が終了スルコト相成ツ

テ居ルノデアリマス、故ニ更ニ此ノ制度ヲ

繼續致シマシテ、市町村農業團體等ノ統合

ノ通改正ス

農林中央金庫特別融通及損失補償法中左

ノ通改正ス

農林中央金庫特別融通及損失補償法中左

ノ通改正ス

農林中央金庫特別融通及損失補償法中左

ノ通改正ス

農林中央金庫特別融通及損失補償法中左

ノ通改正ス

殊ニ「アメリカ」ノ經濟事情ニ左右セラレマ  
シテ、絲價ノ暴騰暴落常ナク、爲ニ斯業ノ  
健全ナル發達ヲ阻碍致スバカリデナク、全  
國多數ノ養蠶農家ノ經營ノ基礎ヲ危ウスル  
モ虞ガアリマシタノデ、當時是等ノ障礙ヲ  
芟除スル爲ニ、生絲ノ制高制低値ノ決定並ニ  
絲價安定施設組合及ビ政府ニ依ル買入、賣

渡等ノ措置ヲ講ズルコトト致シタモノニア  
リマス、爾來同法ノ運用ニ依リマシテ絲價  
ノ安定ヲ確保シテ參ツタノデアリマスガ、  
御承知ノヤウニ支那事變ノ勃發ニ依リ、更  
ニ又大東亜戰爭ノ勃發ニ依リマシテ、從來  
ノ輸出產業ハ今ヤ完全ニ國內重要產業ト致  
シマシテ、軍需及ビ戰時國民衣料ノ充足ニ  
依リマシテ、軍需及ビ戰時國民衣料ノ充足ニ  
モ確立致シタ次第デゴザイマスカラ、最早  
イマス、又其ノ間蠶絲業統制法等ノ制定ニ  
依リマシテ、生産配給消費ニ關スル計畫性  
其ノ使命ヲ果シツ、アルヤウナ次第デゴザ  
イマス、又其ノ間蠶絲業統制法等ノ制定ニ  
依リマシテ、軍需及ビ戰時國民衣料ノ充足ニ  
モ確立致シタ次第デゴザイマスカラ、最早  
今日ニ於キマシテハ同法ニ依ル政府ノ手デ  
以テ絲價安定方策ヲ實施スルコトハ其ノ必  
要ガナクナリマシタノト、絲價安定施設特  
別會計ノ廢止等トモ關聯致シマシテ、茲ニ  
所要ノ措置ヲ執ラントスル次第デゴザイマ  
ス、何卒御審議ノ上速力ニ御協賛ヲ與ヘラ  
レンコトヲ御願ヒ致シマス

○副議長(内ヶ崎作三郎君) 御異議ナシト  
付託スベキ委員ノ選舉ニ付テ御詰リ致シマ  
ス

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ〕

正法律案ノ政府提出、貴族院送付外一件

正法律案ノ書記官朗讀

農林中央金庫特別融通及損失補償法中改  
正法律案ノ書記官朗讀

委員 赤城 宗徳君 伊藤三樹三君

五十嵐吉藏君 小笠原八十美君

岡田啓治郎君 長内 健榮君

金子彦太郎君 北 勝太郎君

小平 権一君 河野 一郎君

杉山元治郎君 田中 源君

高岡 大輔君 津崎 尚武君

恒松於菟二君 中越 義幸君

成島 勇君 野田 正昇君

野村嘉久馬君 平野 力三君

深澤 吉平君 深水 吉毅君

二田 是儀君 本多 鋼治君

松原五百藏君 前川 正一君

三宅 正一君 村上 國吉君

加藤 知正君 森川 仙太君

森口 淳三君 山口馬城次君

山口左右平君 山田 六郎君

吉田 賢一君 吉植 庄亮君

吉田 賢一君 吉植 庄亮君

○森上國雄君 議事日程追加ノ緊急動議ヲ  
提出致シマス、即チ此ノ際政府提出石炭供

給統制法中改正法律案及ビ企業整備資金措

置法中改正法律案ノ兩案ヲ一括議題トナシ、  
其ノ審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマヌ

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ〕

正法律案ノ書記官朗讀

○副議長(内ヶ崎作三郎君) 森下君ノ動議  
ニ御異議アリマセヌカ  
〔「異議ナシ」ト呼ブ者アリ〕

○副議長(内ヶ崎作三郎君) 御異議ナシト  
認メマス、仍テ日程ハ追加セラレマシタ、  
石炭配給統制法中改正法律案、企業整備資  
金措置法中改正法律案、右兩案ヲ一括シテ  
第一讀會ヲ開キマヌ——岸國務大臣

石炭配給統制法中改正法律案(政府提  
出、貴族院送付)  
企業整備資金措置法中改正法律案(政  
府提出、貴族院送付)  
第一讀會

石炭配給統制法中改正法律案  
石炭配給統制法中左ノ通改正ス  
第一條中「石炭ノ取扱ヲ爲ス會社」ノ下ニ  
「其ノ他ノ法人」ヲ加ヘ「指定會社」ヲ「指  
定法人」ニ、「又ハ株主」ヲ「株主其ノ他ノ  
構成員」ニ改ム  
第五條中「指定會社」ヲ「指定法人」ニ改  
ム

第七條第一項中「五千萬圓」ヲ「一億圓」ニ、  
「二千五百萬圓」ヲ「五千萬圓」ニ、同條第  
二項中「其ノ資本ヲ増加スルコトヲ得」ヲ  
「其ノ資本ヲ増加スルコトヲ得此ノ場合  
ニ於テハ政府ハ五千萬圓ヲ超エテ出資ス  
ルコトヲ得」ニ改メ同條ニ左ノ一項ヲ加フ  
政府所有ノ株式ノ株金拂込ハ其ノ他ノ

株式ノ株金拂込ト之ヲ異ニスルコトヲ  
得  
第十二條第一項ヲ左ノ如ク改ム  
社長及副社長ハ主務大臣之ヲ命ジ其ノ

任期ヲ四年トス  
理事ハ株主總會ニ於テ之ヲ選任シ主務  
大臣ノ認可ヲ受クルモノトシ其ノ任期  
ヲ四年トス  
第十五條ノ二 日本石炭株式會社必要ア  
リト認ムルトキハ石炭ノ生産業者、輸入業者若ハ移入業者又ハ指定法人ニ關シ  
シ石炭ノ所有又ハ保管ノ狀況ニ關シ報告ヲ爲サシムルコトヲ得  
日本石炭株式會社必要アリト認ムルト  
キハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ役員又ハ使  
用人ヲシテ前項ニ掲グル者ノ所有又ハ  
保管ニ係ル石炭ノ品質又ハ數量ニ付檢  
査ヲ爲サシムルコトヲ得  
日本石炭株式會社前項ノ規定ニ依リ役  
員又ハ使用人ヲシテ検査ヲ爲サシムル  
場合ニ於テハ同項ノ規定ニ依ル認可ア  
リタルコトヲ證スル書面及其ノ身分ヲ  
示ス證票ヲ携帶セシムベシ  
第十六條第一項中「三倍」ヲ「五倍」ニ改ム  
第十六條ノ二 日本石炭株式會社ハ社債  
借換ノ爲一時前條第一項ノ制限ニ依ラ  
ズ社債ヲ募集スルコトヲ得此ノ場合ニ  
於テハ債券發行後一月以内ニ其ノ社債  
額ニ相當スル舊社債ヲ償還スペシ  
第十七條ノ二 政府ハ日本石炭株式會社  
ノ社債ノ元本ノ償還及利息ノ支拂ニ付  
保證スルコトヲ得  
第二十三條ノ二 社長特別ノ事由アリト  
認ムル場合ニ於テ主務大臣ノ認可ヲ受  
ケタルトキハ株主總會ノ決議ヲ要スル  
事項ニ付其ノ決議ニ拘ラズ業務ヲ執行

スルコトヲ得株主總會成立セズ又ハ株  
主總會ニ付議シタル事項ヲ議決セザル  
トキ亦同ジ但シ商法第三百四十三條ニ  
定ムル決議ヲ要スル事項ニ付テハ此ノ  
限ニ在ラズ  
第二十四條ニ左ノ二項ヲ加フ  
前項ノ規定ニ依リ命令ヲ爲シタルトキ  
ハ政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ニ因  
リ生ジタル損失ヲ補償ズ  
前項ノ補償ヲ伴フベキ命令ハ之ニ因リ  
要スベキ補償金ノ總額ガ帝國議會ノ協  
賛ヲ經タル金額ヲ超エザル範圍内ニ於  
テ之ヲ爲スコトヲ要ス  
第二十八條中「又ハ役員ノ行爲」ヲ削リ  
「取消シ又ハ役員ヲ解任スル」ヲ「取消ス」  
ニ改メ同條ニ左ノ一項ヲ加フ  
主務大臣ハ日本石炭株式會社ノ役員ノ  
行爲ガ法令、法令ニ基キテ爲ス處分若  
ハ定款ニ違反シ若ハ公益ヲ害スト認ム  
ルトキ又ハ事業ノ運營上役員ヲ不適當  
ナリト認ムルトキハ役員ヲ解任スルコ  
トヲ得  
第二十九條中「百分ノ四」ヲ「百分ノ六」ニ  
「一ト三トノ割合」ヲ「一ト五トノ割合」ニ  
改ム  
第三十二條第一號中「第五條」ノ下ニ「又  
ハ第十五條ノ二第一項」ヲ、同條第二號  
中「第五條」ノ下ニ「又ハ第十五條ノ二第一  
項」ヲ加フ  
第二十九條ニ左ノ一號ヲ加フ  
四 第二十七條ノ二第一項ノ規定ニ  
依リ政府ノ定ムル基準ニ依ル額又ハ  
同條第二項ノ規定ニ依リ行政官廳ノ  
定ムル額ヲ超ユル額ヲ以テ讓渡シ若  
ハ讓受ケ、出資シ若ハ出資ヲ受ケ又  
ハ賃貸シ若ハ賃借シタル者

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
○國務大臣(岸信介君) 只今議題トナリマ  
シタ石炭配給統制法中改正法律案外一件ノ  
提案理由ヲ御説明申上ダマス

先づ石炭配給統制法中改正法律案ノ提案理由ヲ御説明致シマス、石炭ノ配給ニ關シマシテハ石炭配給統制法ニ基キマシテ、昭和十五年六月日本石炭株式會社ヲ設立致シマシテ、同社ヲシテ所謂石炭ノ賣戻シ制度ニ依リマシテ、配給ノ統制ヲ行ハシメテ參ツタノデアリマス、然ルニ大東亞戰爭勃發以後ニ於ケル石炭ノ需給關係ノ實情ニ鑑ミマシテ、新シキ事態ニ對處スル爲メ、日本石炭株式會社ノ賣戻シ制度ヲ廢止スルコトト致シマシテ、昨年十二月一日ヨリ逐次之ヲ實施ニ移シ、來ル四月一日ヨリハ全面的ニ新機構ニ依リ石炭ノ配給ヲ行フコトヲ目途トシテ、準備ヲ進メテ居ル次第デアリマス、而シテ是ガ爲ニハ日本石炭株式會社ノ財政的地位ヲ鞏固ナラシメマスルト共ニ、同社ニ對スル政府ノ指導監督ヲモ更ニ強化致サネバナラヌノデアリマス、斯カル趣旨ニ於キマシテ石炭配給統制法ヲ改正シ、以テ日本石炭株式會社ヲシテ其ノ使命達成ニ遺憾ナキヲ期セシメントスル次第デアリマス次ニ企業整備資金措置法中改正法律案ノ提案理由ヲ御説明致シマス、戰力增强企業整備ハ、原則トシテ行政官廳ノ指導斡旋ト、關係業者ノ積極的協力トニ依リマシテ實施スルコトト致シ、必要ニ應ジマシテ企業整備令等ノ法令ヲ發動スルト云フ方針デ實施シテ參ツテ居ルノデアリマシテ、現在マテノ所、概々順調ニ進捗シテ居ルノデアリマス、而シテ企業整備ノ結果、工場ノ土地、建物、設備等ガ直接陸海軍其ノ軍需生産工業、重點方面ニ轉用セラレマスル場合ニ於キマシテ、其ノ讓渡價額、出資價額等ノ吊上ゲ

ノ爲ニ、其ノ轉用ガ遲延シ、或ハ企業資金運用ノ適正化ガ阻礙セラレルヤウナ事態ノ發生ヲ防止致シマシテ、企業整備ノ促進ヲ圖リマスルト共ニ、迅速ナル戰力化ヲ期スル爲メ、今回本案ヲ提出スルニ至ツタ次第デアリマス、何卒御審議ノ上御協賛アランコトヲ希望致シマス（拍手）

○副議長（内ヶ崎作三郎君） 各案ノ審査ヲ付託スペキ委員ノ選舉ニ付テ御諮り致シマス

○森下國雄君 欄案ヲ一括シテ議長指名二十七名ノ委員ニ付託シ、直チニ委員ヲ指名セラレンコトヲ望ミマス

○副議長（内ヶ崎作三郎君） 森下君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔「異議ナシ」と呼ブ者アリ〕

○副議長（内ヶ崎作三郎君） 御異議ナシト認メマス、仍ニ動議ノ如ク決シマシタ、委員ノ氏名ハ書記官ヲシテ報告致サセマス

〔書記官朗讀〕

石炭配給統制法中改正法律案（政府提出貴族院送付）外一件委員

池田正之輔君	石坂 養平君
石榑 敬一君	今牧 嘉雄君
卯尾田毅太郎君	奥 久登君
川口 壽君	川俣 清音君
勝又 春一君	木下 郁君
北 眇吉君	久山 知之君
齋藤 憲三君	酒井 利雄君
篠川 良一君	宗前 清君
高畠龜太郎君	土屋 寛君
中井 亮作君	西尾 末廣君

○森下國雄君 議事日程追加ノ緊急動議ヲ提出致シマス、即チ此ノ際政府提出船舶職員法中改正法律案及ビ簡易生命保険法中改正法律案ノ兩案ヲ一括議題トナシ、其ノ審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス

○副議長(内ヶ崎作三郎君) 森下君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔「異議ナシ」と呼ブ者アリ〕

○副議長(内ヶ崎作三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ハ追加セラレマシタ、船舶職員法中改正法律案、簡易生命保険法中改正法律案、右兩案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キマス——八田運輸通信大臣

船舶職員法中改正法律案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會

船舶職員法中改正法律案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會

船舶職員法中改正法律案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會

第一條第二項中「一等運轉士、二等運轉士、三等運轉士」ヲ「一等航海士、二等航海士、三等航海士」ニ、「及三等機關士」

第三條第一項ヲ左ノ如ク改ム  
海技免狀ハ左ノ十七種トス  
甲種船長  
甲種一等航海士  
甲種二等航海士  
乙種船長  
乙種一等航海士  
丙種航海士  
乙種二等航海士  
甲種機關長  
甲種一等機關士  
甲種二等機關士  
乙種機關長  
乙種一等機關士  
乙種二等機關士  
丙種機關士  
甲種船舶通信士  
乙種船舶通信士  
丙種船舶通信士  
同條第二項中「遞信大臣」ヲ「主務大臣」ニ  
改ム  
第五條中「遞信大臣」ヲ「主務大臣」ニ、「若  
ハ機關運轉」ヲ「機關運轉若ハ無線電  
信ニ依ル通信」ニ、「若ハ機關ノ運轉」ヲ  
「機關ノ運轉若ハ無線電信ニ依ル通信」  
ニ改ム  
第六條第二項、第九條ノ三及第九條ノ四  
中「遞信大臣」ヲ「主務大臣」ニ改ム  
第一號表ヲ左ノ如ク改ム

第一號表

船舶職員定員表

海

近

域

		域 區										
		五千噸以上					五千噸未滿					
		船 長	甲 種 船 長	一等 航 海 士	二等 航 海 士	三等 航 海 士	機 關 長	甲 種 機 關 長	乙 種 機 關 長	一等 機 關 士	二等 機 關 士	三等 機 關 士
三千噸未滿												
一等機關士	機 關 長	一等 航 海 士	甲 種 一 等 航 海 士	乙 種 一 等 航 海 士	丙 種 一 等 航 海 士	丁 種 一 等 航 海 士	戊 種 一 等 航 海 士	己 種 一 等 航 海 士	庚 種 一 等 航 海 士	辛 種 一 等 航 海 士	壬 種 一 等 航 海 士	癸 種 一 等 航 海 士
一等船舶通信士	機 關 長	一等 航 海 士	甲 種 一 等 航 海 士	乙 種 一 等 航 海 士	丙 種 一 等 航 海 士	丁 種 一 等 航 海 士	戊 種 一 等 航 海 士	己 種 一 等 航 海 士	庚 種 一 等 航 海 士	辛 種 一 等 航 海 士	壬 種 一 等 航 海 士	癸 種 一 等 航 海 士
二等船舶通信士	機 關 長	二等 航 海 士	甲 種 二 等 航 海 士	乙 種 二 等 航 海 士	丙 種 二 等 航 海 士	丁 種 二 等 航 海 士	戊 種 二 等 航 海 士	己 種 二 等 航 海 士	庚 種 二 等 航 海 士	辛 種 二 等 航 海 士	壬 種 二 等 航 海 士	癸 種 二 等 航 海 士
三等船舶通信士	機 關 長	三等 航 海 士	甲 種 三 等 航 海 士	乙 種 三 等 航 海 士	丙 種 三 等 航 海 士	丁 種 三 等 航 海 士	戊 種 三 等 航 海 士	己 種 三 等 航 海 士	庚 種 三 等 航 海 士	辛 種 三 等 航 海 士	壬 種 三 等 航 海 士	癸 種 三 等 航 海 士

域		區		洋		遠	
一萬噸以上		一萬噸未滿					
機 關 士	長	機 關 士	長	甲 種 機 關 長	甲 種 船 舶 通 信 士	乙 種 船 舶 通 信 士	甲 種 二 等 機 關 士
一等船舶通信士	甲種船舶通信士	乙種船舶通信士	甲種船舶通信士	乙種船舶通信士	甲種船舶通信士	乙種船舶通信士	甲種船舶通信士
二等船舶通信士	甲種船舶通信士	乙種船舶通信士	甲種船舶通信士	乙種船舶通信士	甲種船舶通信士	乙種船舶通信士	甲種船舶通信士
三等船舶通信士	甲種船舶通信士	乙種船舶通信士	甲種船舶通信士	乙種船舶通信士	甲種船舶通信士	乙種船舶通信士	甲種船舶通信士
機 關 士	長	機 關 士	長	甲 種 機 關 長	甲 種 船 舶 通 信 士	乙 種 船 舶 通 信 士	甲 種 二 等 機 關 士
一等機 關 士	甲 種 航 海 士	甲 種 航 海 士	甲 種 航 海 士	甲 種 船 舶 通 信 士	乙 種 船 舶 通 信 士	甲 種 船 舶 通 信 士	乙 種 船 舶 通 信 士
二等機 關 士	甲 種 航 海 士	甲 種 航 海 士	甲 種 航 海 士	甲 種 船 舶 通 信 士	乙 種 船 舶 通 信 士	甲 種 船 舶 通 信 士	乙 種 船 舶 通 信 士
三等機 關 士	甲 種 航 海 士	甲 種 航 海 士	甲 種 航 海 士	甲 種 船 舶 通 信 士	乙 種 船 舶 通 信 士	甲 種 船 舶 通 信 士	乙 種 船 舶 通 信 士
一等船舶通信士	甲種船舶通信士	乙種船舶通信士	甲種船舶通信士	乙種船舶通信士	甲種船舶通信士	乙種船舶通信士	甲種船舶通信士
二等船舶通信士	甲種船舶通信士	乙種船舶通信士	甲種船舶通信士	乙種船舶通信士	甲種船舶通信士	乙種船舶通信士	甲種船舶通信士
三等船舶通信士	甲種船舶通信士	乙種船舶通信士	甲種船舶通信士	乙種船舶通信士	甲種船舶通信士	乙種船舶通信士	甲種船舶通信士

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
本法施行前授與シタル海技免狀ハ命令ノ  
定ムル所ニ依リ改正後ノ船舶職員法第三  
條第一項ニ掲タル相當ノ海技免狀ト交換  
スペシ

本法施行前授與シタル海技免狀ハ前項ノ  
規定ニ依リ相當ノ海技免狀ト交換スル迄  
之ニ代用スルコトヲ得

船舶ノ無線電信ニ依ル通信ニ本法施行ノ  
際現ニ從事シ又ハ本法施行前從事シタル  
船舶職員法第三條第一項ニ掲タル相當ノ海  
者ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ改正後ノ船  
舶職員法第三條第一項ニ掲タル相當ノ海  
技免狀ヲ授與スルコトヲ得

本法施行ノ際現ニ航行中ノ船舶其ノ他命令  
ヲ以テ定ムル船舶ニ乘組マシムベキ船  
舶職員ニ付テハ命令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲  
スコトヲ得

登録税法第九條第一號ヲ左ノ如ク改ム  
一 新規登録

甲種船長	金十五圓
甲種二等航海士	金十圓
乙種船長	金六圓
乙種二等航海士	金三圓
丙種航海士	金十五圓
甲種機關長	金四圓
乙種一等航海士	金十圓
乙種二等航海士	金六圓
甲種機關長	金三圓
甲種二等機關士	金三圓
乙種機關長	金三圓
乙種一等機關士	金三圓
乙種二等機關士	金三圓
丙種機關士	金三圓
乙種船舶通信士	金三圓
丙種船舶通信士	金三圓
水先人	金二十圓

簡易生命保険法中改正法律案

簡易生命保険法中左ノ通改正ス

第二條第一項ニ左ノ但書ヲ加フ  
但シ保険金額千圓ヲ超ユルモノハ此ノ

限ニ在ラス

第四條第一項中「千圓」ヲ「二千圓」ニ改メ  
同項ニ左ノ但書ヲ加フ  
但シ一年間ニ付契約シ得ヘキ保険金額

ハ千圓ヲ超ユルコトヲ得ス

附則

本法ハ昭和十九年四月一日ヨリ之ヲ施行  
ス

〔國務大臣八田嘉明君登壇〕

○國務大臣(八田嘉明君) 只今議題トナリ  
マシタ船舶職員法中改正法律案外一件ニ付  
テ提案理由ヲ御説明申上ゲマス

先づ船舶職員法中改正法律案ニ付キ申上  
ゲマス、今次改正ノ重點ハ、第一ニ船舶ノ

無線電信ニ依ル通信ニ從事スル者ヲ船舶職  
員トスルコト、第二ニ運轉士ノ名稱ヲ航海

整備スルコト、第四ニ船舶職員ノ定員ヲ改  
ムルコトノ四點ニアリマシテ、之ニ依リ船

舶航行ノ安全及ビ運航能率ノ増進ヲ圖リ、

以テ海上輸送ノ完璧ヲ期セントスルモノデ  
アリマス、輓近ニ於ケル無線科學ノ發達ハ

船舶航行ト、無線電信運用トノ關係ヲ益々  
密接ナラシメテ居ルノデアリマスルガ、大

東亞戰爭ノ進展ニ伴ヒマシテ、其ノ緊密性ハ  
著シク加重セラレ、船舶ニ乘組ム無線通信

士ハ、船舶運航上極メテ重要ナル職責ヲ分  
擔スルモノトナツクノデアリマス、仍テ今

回之ヲ船舶職員トシテ法定致サントスル次  
第ニアリマス、次ニ從來海技免狀ハ本法ニ

定ムル免狀ノ外ニ多數ノ效力制限免狀ガア  
リマシテ、複雜多岐ニ瓦リ、即ツテ體通性

本法施行前授與シタル海技免狀ハ前項ノ  
規定ニ依リ相當ノ海技免狀ト交換スル迄

之ニ代用スルコトヲ得

船舶ノ無線電信ニ依ル通信ニ本法施行ノ  
際現ニ從事シ又ハ本法施行前從事シタル  
者ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ改正後ノ船  
舶職員法第三條第一項ニ掲タル相當ノ海  
技免狀ヲ授與スルコトヲ得

本法施行ノ際現ニ航行中ノ船舶其ノ他命令  
ヲ以テ定ムル船舶ニ乘組マシムベキ船  
舶職員ニ付テハ命令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲  
スコトヲ得

登録税法第九條第一號ヲ左ノ如ク改ム  
斯

ヲ阻碍セラル、ノ感ガアルノデアリマス、  
仍テ今回免狀ノ效力ニ制限ヲ加ヘルコトハ  
全般的ニ停止致シマシテ、免狀ノ種類ヲ現

狀ニ即スル如ク改メタ次第デアリマス、次  
ニ海技免狀ノ整備ト相俟チマシテ、船舶職  
員定員表ヲモ實情ニ副フ如ク改メマシタノ

デアリマス、以上ノ事由ニ依リマシテ船舶  
職員法中改正法律案ヲ提案致シタ次第デア  
リマス

次ニ簡易生命保険法中改正法律案ノ提案  
ノ理由ヲ御説明申上ゲマス、本案ハ戰時下  
ノ民貯蓄ノ増強ヲ圖リマスルト共ニ、國民

生活ノ安定確保ヲ期スルガ爲メ、簡易生命  
保険ノ被保險者一人ニ付キ加入シ得ル保險

金ノ最高制限額ヲ二千圓ニ引上ゲントスル

モノデアリマス、簡易生命保険制度ハ、此

ノ改正ニ依リマシテ益、其ノ機能ヲ發揮スル

コトトナリ、戰時下購買力ノ吸收並ニ國民生

活ノ安定ニ寄與スル所尠カラザルヲ確信致

シテ居ル次第デアリマス、何卒十分御審議

ノ上、速カニ御協賛アランコトヲ御願ヒ致

シマス(拍手)

○副議長(内ヶ崎作三郎君) 各案ノ審査ヲ  
付託スベキ委員ノ選舉ニ付テ御諸リ致シマス

アリマス、輓近ニ於ケル無線科學ノ發達ハ

船舶航行ト、無線電信運用トノ關係ヲ益々  
密接ナラシメテ居ルノデアリマスルガ、大

東亞戰爭ノ進展ニ伴ヒマシテ、其ノ緊密性ハ  
著シク加重セラレ、船舶ニ乘組ム無線通信

士ハ、船舶運航上極メテ重要ナル職責ヲ分  
擔スルモノトナツクノデアリマス、仍テ今

回之ヲ船舶職員トシテ法定致サントスル次  
第ニアリマス、次ニ從來海技免狀ハ本法ニ

定ムル免狀ノ外ニ多數ノ效力制限免狀ガア  
リマシテ、複雜多岐ニ瓦リ、即ツテ體通性

本法施行前授與シタル海技免狀ハ前項ノ  
規定ニ依リ相當ノ海技免狀ト交換スル迄

之ニ代用スルコトヲ得

船舶ノ無線電信ニ依ル通信ニ本法施行ノ  
際現ニ從事シ又ハ本法施行前從事シタル  
者ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ改正後ノ船  
舶職員法第三條第一項ニ掲タル相當ノ海  
技免狀ヲ授與スルコトヲ得

本法施行ノ際現ニ航行中ノ船舶其ノ他命令  
ヲ以テ定ムル船舶ニ乘組マシムベキ船  
舶職員ニ付テハ命令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲  
スコトヲ得

登録税法第九條第一號ヲ左ノ如ク改ム  
斯

設法戰時特例案及ビ郵便法中改正法律案ノ  
兩案ヲ一括議題トナシ、委員長ノ報告ヲ求  
メ其ノ審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス

○副議長(内ヶ崎作三郎君) 森下君ノ動議  
ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○副議長(内ヶ崎作三郎君) 御異議ナシト  
認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○副議長(内ヶ崎作三郎君) 森下君ノ動議  
ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○副議長(内ヶ崎作三郎君) 邮便法中改正法律  
案、右兩案ヲ一括シテ、第一讀會ノ續ヲ開

キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス——委員  
長今井健彦君

○副議長(内ヶ崎作三郎君) 各案ノ審査ヲ  
付託スベキ委員ノ選舉ニ付テ御諸リ致シマス

シテ居ル次第デアリマス、何卒十分御審議

ノ上、速カニ御協賛アランコトヲ御願ヒ致

シマス(拍手)

○副議長(内ヶ崎作三郎君) 各案ヲ一括シテ政府提出  
道敷設法戰時特例案外一件委員ニ併セ付託

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致  
候此段及報告候也

昭和十九年一月二十七日

委員長 今井 健彦

衆議院議長岡田忠彦殿

報告書

一郵便法中改正法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致  
候此段及報告候也

昭和十九年一月二十七日

委員長 今井 健彦

衆議院議長岡田忠彦殿

報告書

一郵便法中改正法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致  
候此段及報告候也

昭和十九年一月二十七日

委員長 今井 健彦

衆議院議長岡田忠彦殿

報告書

○森下國雄君 議事日程追加ノ緊急動議ヲ  
認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○森下國雄君 議事日程追加ノ緊急動議ヲ  
認メマス、即チ此ノ際政府提出鐵道敷

設法戰時特例案及ビ郵便法中改正法律案  
此ノ二件ノ委員會ノ審議ノ經過竝ニ結果ニ

付テ御報告申上ダマス、鐵道敷設法戰時特例案ハ、從來ニ於キマシテ鐵道ヲ敷設セン

ト致シマスル時ハ、豫メ定メラレマシタル

豫定線路ノ中カラ路線ヲ選定致シマシテ、

其ノ豫算ヲ議會ニ提出シテ協賛ヲ求メタノ

デアリマスガ、戰時ニ際シマシテ急速ニ鐵

道ヲ調査敷設スル必要ノアリマスル時ハ、

議會ノ協賛ヲ俟タナイデ、唯鐵道會議ノ諸

問ノミラ以テ隨時豫備金ヲ支出シテ、鐵道

ヲ敷設スルコトヲ得ルヤウニ改メヨウトス

ルモノデアリマス、此ノ委員會ニ於キマシ

テハ、本案ニ關聯致シマシテ運輸交通全般

ニ亘リマシテ、凡ユル質問ガ行ハレタノデ

アリマス、即チ輸送ノ増強或ハ、海陸ノ連

絡、港灣ノ設備、地場輸送、就牛馬車ノ

問題或ハ飼料ノ問題、貨物自動車ノ問題、

燃料、資材、空襲時ノ輸送、旅客ノ調整、

鐵道事故ノ防止、現業員ノ確保等、色々ノ

角度ヨリ重要劉切ナル質疑應答ガ繰返サレ

マシタ、其ノ詳細ハ速記録ニ譲リマスガ、

其ノ中デ、二、三御報告申上ダトイコトガア

リマス

其ノ第一ハ今後ノ鐵道敷設ニ關シマシテ

議會ノ協賛ヲ經ル餘裕ノアル時ハ、此ノ特

例ニ依ラナイデ帝國議會ノ協賛ヲ經テ實施

スルカト云フ質問ガアリマシタ、之ニ對シ

マシテ政府ハ、本特別ハ戰時特別ノ臨時措

置デアルカラ、出來ル限り議會ノ協賛ヲ經

テ實施スル旨ノ答辯ガアリマシタ

第二ニ國有鐵道ノ撤廢轉用ニ依リマシテ、

議ノ諮詢ヲ經ベキデハナカトノ質問ガア

リマシタ、之ニ對シマシテ政府ハ回收轉用

ノ爲ニスル國有鐵道路線ノ營業休止ハ、二

三「キロ」程度ノ極メテ短小ナル線路ノ場合  
ハ別トシテ、回收轉用ニ依リマシテ相當重  
要ナル路線ノ營業休止ヲ行フヤウナ場合ニ  
ハ、原則トシテ鐵道會議ノ議ヲ經ルコトハ  
至當ト考ヘル、仍テ將來ニ於テハ適當ニ善  
處スル旨ノ答辯ガアリマシタ、第三ニ本特  
例適用ノ爲メノ鐵道會議ヘノ諮問等モ考慮  
シテ、鐵道會議ノ機構ヲ擴大強化スル意思  
ガナイカトノ質問ニ對シマシテハ、運輸通  
信大臣ハ、今後ニ於ケル鐵道會議ノ機構整  
備ニ付テハ、御趣旨ニ即シマシテ考慮善處  
スル旨ノ言明ガアリマシタ

次ニ郵便法中改正法律案ニ付テ御報告ヲ  
申上ダマス、此ノ法律ハ郵便法ノ第十八條  
ヲ改正シテ、料金ノ增收ヲ圖リ、其ノ增收  
ヲ以チマシテ一ハ戰爭遂行ニ必要ナル軍事  
費ニ寄與シ、一ハ從業員ノ待遇ヲ改善シ、  
料ノ値上、是等ヲ加ヘマスルト、政府ノ全  
收入ハ此ノ通信ノミニ於キマシテ、一億二  
千萬圓ニナルノデアリマス、政府ハ其ノ使  
途ニ付キマシテ、一億二千萬圓ノ中四千萬  
圓ハ電信電話ノ擴張ニ充アル、一千五百萬  
圓ハ從業員ノ待遇改善、或ハ厚生施設ニ用  
フル、殘リ六千五百萬圓ヲ軍事費ニ繰入レ  
ル、斯ウ云フ答辯ガアリマシタ

斯クテ本日ニナリマシテ質疑ヲ終ヘテ、  
討論ニ移リマシタ、新井委員ヨリ致シマシ  
テ、兩案トモ原案通り賛成ノ意見ノ開陳ガ  
アリマシテ、採決ノ結果満場一致兩案トモ  
可決致シマシタ、以上御報告申上ダマス  
(拍手)

○副議長(内ヶ崎作三郎君) 御異議ナシト  
會フ開クニ御異議アリマセヌカ  
シマシタ  
(「異議ナシ」と呼ぶ者アリ)

○森下國雄君 直チニ兩案ノ第一讀會ヲ開  
キ、第三讀會ヲ省略シテ委員長報告ノ通り

認メマス、仍テ兩案ノ第二讀會ヲ開クニ決  
ス

(「異議ナシ」と呼ぶ者アリ)

○副議長(内ヶ崎作三郎君) 森下君ノ動議

御異議アリマセヌカ

○副議長(内ヶ崎作三郎君) 御異議ナイト  
認メマス、仍テ日程ハ追加セラレマシタ、昭

和十九年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル等ノ  
爲ノ公債發行ニ關スル法律案、學校特別會

第三ニ從業員ノ必需物質ノ配給ニ關シマシ  
テハ、今後トモ十分善處スベキ旨ノ答辯ガ  
アリ、第四ニ行政簡素化等ニ依ル人員ノ減  
少ノ爲メ、事業運行ニ支障ガナイカトノ質

問ニ對シテハ、色々ノ對策ヲ講ジテ戰時下最

モ緊要デアリマスル通信業務ノ確保ヲ期シ

テ居ル旨ノ答辯ガアリマシタ、尙ホ此ノ改

正ニ依リマシテ、政府ノ收入ノ增加ハ約三

千萬圓デアリマス、其ノ他ニ法律ニ依ラズ致

シマシテ、省令ヲ以テ徵收致シマスル小包、

書留、速達或ハ電報料ノ値上、電話ノ度數

料ノ値上、是等ヲ加ヘマスルト、政府ノ全

收入ハ此ノ通信ノミニ於キマシテ、一億二

千萬圓ニナルノデアリマス、政府ハ其ノ使

途ニ付キマシテ、一億二千萬圓ノ中四千萬

圓ハ電信電話ノ擴張ニ充アル、一千五百萬

圓ハ從業員ノ待遇改善、或ハ厚生施設ニ用

フル、殘リ六千五百萬圓ヲ軍事費ニ繰入レ

ル、斯ウ云フ答辯ガアリマシタ

○副議長(内ヶ崎作三郎君) 御異議ナシト  
會フ開クニ御異議アリマセヌカ  
シマシタ  
(「異議ナシ」と呼ぶ者アリ)

○副議長(内ヶ崎作三郎君) 森下君ノ動議

御異議アリマセヌカ

○副議長(内ヶ崎作三郎君) 御異議ナイト  
認メマス、仍テ日程ハ追加セラレマシタ、昭

和十九年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル等ノ  
爲ノ公債發行ニ關スル法律案、學校特別會

ニ御異議アリマセヌカ

「異議ナシ」と呼ぶ者アリ」

○副議長(内ヶ崎作三郎君) 御異議ナシト  
會フ開クニ御異議アリマセヌカ  
シマシタ  
(「異議ナシ」と呼ぶ者アリ)

法案、厚生保険特別會計法案、農業家畜再保險特別會計法案、簡易生命保險及郵便年金特別會計法案、臺灣事業用品資金特別會計法案、作業會計法外十法律中法中改正法律案、國有財產整理資金特別會計法外三法律案、廢止ニ關スル法律案、臨時資金調整法中改正法律案、戰時喪失無記名國債證券臨時措置法案、煙草專賣法及鹽專賣法中改正法律案、開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス——委員長中村梅吉君

昭和十九年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル等ノ爲ノ公債發行ニ關スル法律案  
(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)  
（政府提出）第一讀會ノ續(委員長報告)  
學校特別會計法案(政府提出)  
第一讀會ノ續(委員長報告)  
厚生保険特別會計法案(政府提出)  
農業家畜再保險特別會計法案(政府提出)  
(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)  
簡易生命保險及郵便年金特別會計法案(政府提出)  
(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)  
右八本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也  
昭和十九年一月二十七日 委員長 中村 梅吉  
衆議院議長岡田忠彦殿 報告書

一昭和十九年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル等ノ爲ノ公債發行ニ關スル法律案  
(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)  
右八本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也  
昭和十九年一月二十七日 委員長 中村 梅吉  
衆議院議長岡田忠彦殿 報告書

一臺灣事業用品資金特別會計法案(政府提出)  
右八本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也  
昭和十九年一月二十七日 委員長 中村 梅吉  
衆議院議長岡田忠彦殿 報告書

一作業會計法外十法律中改正法律案(政府提出)  
右八本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也  
昭和十九年一月二十七日 委員長 中村 梅吉  
衆議院議長岡田忠彦殿 (中村梅吉君登壇) 報告書

十九年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル等ノ爲ノ公債發行ニ關スル法律案外十件委員會ノ經過茲ニ結果ニ付テ御報告申上ゲマス  
各案ノ要旨ニ付キマシテハ過日本議場ニ於キマシテ大藏大臣ヨリ詳細御説明ガゴザイマシタカラ、此處ニ其ノ再說ヲナスノ煩テ省略致シタイト存ジマス、但シ昭和十九年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲ノ公債發行限度額ニ付キマシテ、委員會ノ審議途中ニ於テ政府ヨリ修正ノ提案ガゴザイマヌタ、即チ當初ノ提案ニ係ル公債發行限度額ハ五十七億九千八百五十萬圓アリマスガ、其ノ外ニ更ニ昭和十九年度歲入歲出豫算追加案第二號ニ計上致サレマシタ經費ノ財源ト致シマシテ、二億六千五百八十萬圓ノ公債發行ヲ必要トスルニ至リマシタ理由ニ依リマシテ、當初ノ發行限度額ニ右ノ金額ヲ追加致シ、其ノ公債發行限度額ヲ六十億六千四百三十萬圓ニ増加修正致サレタノデア、  
リマス

委員會ハ去ル二十二日以來會ヲ重ネルコト五回、委員懇談會ヲ開催スルコト二回、其ノ間委員各位ト政府トノ間ニ建設的ニシテ極メテ適切且ツ熱心ナル質疑應答ガ重ねラレタノデアリマス、委員會ニ於ケル質疑應答ノ詳細ニ付キマシテハ速記録ニ依ツテ御覽ヲ願フコトニ致シタイト思ヒマスガ、唯茲ニ重要ト認メラル、二三ノ質疑應答ニ付テ御紹介ヲ申上ゲタイト思フノデアリマス

ル、國債ニ付テハ平時的ナ考ヘデ戰時ヲ考ヘルコトハ適當デナイト思フ、戰爭ガ一面ニ於テハ大ナル消耗ヲ伴フモノデアルガ、又他面ニ於テハ大ナル生産力ヲ培養シツツアルノデアル、生產力ノ増強ハ勝ツ爲ノ基異ニスルモノデアルト云フ御趣旨ノ答辯ガゴザイマシタ、次ニ一般會計ノ財源ハ公債ニ依ラザルヲ適當ト認メルガ、政府ノ所見如何トノ質疑ニ對シマシテ、政府委員ヨリ理想ハ御尤モデアルガ、一般會計モ今日ハ戰費化シテ居ル、又ハ準戰費的ノモガ多クナツテ居ル、現戰時下ニ於テハ已ムヲ得ザルモノデアルト認メルト云フ趣旨ノ答辯ガガゴザイマシタ、次ニ戰時喪失無記名國債證券臨時措置法案ニ付キマシテ、新證券交付ノ適用範圍ヲ戰爭灾害ノミナラズ、震災、風水害等ノ一般灾害ニモ適用シテハ如何トノ質疑ニ對シマシテ、政府ヨリ震災、風水害等ニ因ル集團的被害ヲ生ジタ場合ニ於テハ、命令ヲ以テ指定シテ新證券交付、即チ本法ヲ適用スル途ヲ講ズル考ヘデアルト云フ答辯ガゴザイマシタ、最後ニ臨時資金調整法中改正法律案ニ付キマシテ第十條ノ一、即チ資金ノ浮動化防止ノ強化ニ關スル改正ノ點ニ付テ、適用ノ範圍及び運用ニ付テハ命令ニ讓ツテ居ルガ、其ノ適用ノ範圍及び運用ノ方法如何ト云フ質疑ニ對シマシテ、適用ノ範圍ハ生産・關係ノナイン時的、臨時的ノ收入ニ對シテノミ適用セントスルモノデアル、從來ハ土地、建物等ノ不動產ニ付テノミ適用セラレテ居ツタノデアルガ、今回

ハ其ノ範圍ヲ右ノ趣旨ノ範圍ニ於テ擴張セントスルモノデアル、運用ニ付キマシテ不動産ノ收入或ハ補償金等ノ全部又ハ一部戰時特殊損害保険ニ依ル保険金ノ全部又ハ一部等ノ場合デアル、其ノ他ノ場合ニ付キマシテハ從來ト其ノ運用ニ變化ハナイ、從來ト同様簡捷ヲ主トシテ運用ヲシテ行ク者ヘデアル、格別從來ノ運用ニ強化ヲ加へルヤウナ新制度ヲ命令等ニ依ツテ設定ヲスル考へハ毛頭ナイ、斯ウ云フ趣旨ノ御答辯ガゴザイマシタ、以上ノ外各案ニ付キマシテ色々々ト各種ノ角度カラ熱心且ツ適切ナル質疑應答ガ交サレタノデアリマスガ、總テハ速記錄ニ譲ルコトニ致シマス  
斯クテ本日質疑ヲ終了致シマシテ、討論ヲ省略シテ採決ヲ致シマシタ結果、全員一致政府提出原案ニ賛成ニ決シマシタ、此ノ段御告ゴ申上ゲマス(拍手)  
○副議長(内ヶ崎作三郎君) 十一案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ  
〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ  
○副議長(内ヶ崎作三郎君) 御異議ナシト認ヌマス、仍テ十一案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ  
○副議長(内ヶ崎作三郎君) 森下君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ  
〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ  
○副議長(内ヶ崎作三郎君) 御異議ナシト

昭和十九年度一般會計歳出ノ財源ニ充  
ツル等ノ爲ノ公債發行ニ關スル法律案  
學校特別會計法案 第二讀會(確定議  
農業家畜再保險特別會計法案 第一讀會(確定議  
簡易生命保險及郵便年金特別會計法案  
臺灣事業用品資金特別會計法案 第二讀會(確定議  
作業會計法外十法律中改正法律案 第二讀會(確定議  
國有財產整理資金特別會計法外三法律  
ノ廢止ニ關スル法律案 第二讀會(確定議  
臨時資金調整法中改正法律案 第二讀會(確定議  
戰時喪失無記名國債證券臨時措置法案 第二讀會(確定議  
煙草專賣法及鹽專賣法中改正法律案 第二讀會(確定議  
○副議長(内ヶ崎作三郎君) 別ニ御發議アリマセヌ、第三讀會ヲ省略シテ、十一委  
トモ委員長報告通り可決確定致シマシタ、  
(拍手)是ニテ議事日程ハ議了致シマシタ、  
次會ノ議事日程ハ公報ヲ以テ通知致シマス、  
本日八はニテ散會致シマス  
午後三時五分散會

印 刷 局